

建築物の構造概要	
(1) 工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事
建築場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9他
(2) 設計年月	令和7年3月
(3) 工事種別	■新築 □増築 □増改築 □改築
(4) 構造種別	鉄筋コンクリート造（RC造）
(5) 構造形式	ラーメン構造
(6) 基礎形式	杭基礎
(7) 階数	地上 3 階 地下 階 塔屋 1 階
(8) 主要用途	病院
(9) 構造計算ルート	<input type="checkbox"/> ルート1（ <input type="checkbox"/> ルート1-1 <input type="checkbox"/> ルート1-2 ） <input type="checkbox"/> 限界耐力計算又は同等以上の構造計算 <input type="checkbox"/> ルート2（ <input type="checkbox"/> ルート2-1 <input type="checkbox"/> ルート2-2 ） <input type="checkbox"/> 時刻歴応答解析 <input checked="" type="checkbox"/> ルート3 <input type="checkbox"/> その他
(10) 重要度係数等の考慮の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有（■1.5（Ⅰ類） <input type="checkbox"/> 1.25（Ⅱ類） <input type="checkbox"/> 1.0（Ⅲ類） ） <input type="checkbox"/> その他：免震構造

特記仕様書の適用	
1. 標準仕様	図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、標仕という。）による。
2. 特記仕様	(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 特記事項は、○印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 <input type="checkbox"/> 印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。 (2) 各章の章、節、項の番号は、標仕の当該番号に対応する。 (3) (表) (図) の番号は標仕の当該表または図の番号を表す。 (4) □印は「図等による環境物品等の調達推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特記調達品目を示す。 (5) 図中の「付加」は、標仕にない特記事項を示す。

4章 地業工事	
2節 試験及び報告書	
○4.2.2 試験杭	(1) 試験杭の位置及び本数 ※ 最初の1本 ○ 設計図による 試験杭の杭長は本杭と同じとする。
・4.2.3 杭の載荷試験	(1) 鉛直載荷試験 ※ 行わない ・ 行う（次による） 水平載荷試験 ※ 行わない ・ 行う（次による） 鉛直載荷試験： 杭径（ φ ） 個所数（ カ所） 最大載荷荷重（ k N ） 水平載荷試験： 杭径（ φ ） 個所数（ カ所） 最大載荷荷重（ k N ） (2)(3) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
・4.2.4 地盤の載荷試験	(1) 平板載荷試験 ※ 行わない ・ 行う（次による） (2) 個所数（ カ所） 試験深さ（ S G L - m ） 対象地盤（ ） 最大載荷荷重（ k N / m ² ） (4) 試験位置・試験方法及び報告書の記載事項は設計図による。
3節 既製コンクリート杭地業	
・4.3.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による (2) 先端部形状 ※ 開放型 ・ 閉塞平たん形
・4.3.4 セメントミルク工法	(1) 根固め液の使用 ※ あり ・ なし 杭周固定液の使用 ※ あり ・ なし (6) アースオーガーの支持地盤への掘削深さ 1.5m 程度 ※ 杭先端深さ 支持層より 1.0m以上 ※ 杭の高止まり 0.5m以下
・4.3.5 特定埋込杭工法	(1) 工法 ・ ブレポーリング拡大根固め工法 ・ 中掘り拡大根固め工法 ・ その他（ ） 杭周固定液 ※ 使用する ・ 使用しない
・4.3.6 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
・4.3.8 杭頭の処理等	(1) 杭頭処理 ※ 切断しない ・ 切断する ネガティブフリクション対策 ※ 無 ・ 有（設計図による） 杭頭補強筋は、設計図による。

4節 鋼杭地業	
・4.4.1 一般事項	工法 ・ 特定埋込杭工法（ 工法）
・4.4.3 材料	(1) 杭径・杭長・種別・長期許容支持力 ※ 設計図による
・4.4.5 継手	(1) 杭の継手 ・ 建築基準法に基づく指定機関において性能評定を受けた無溶接継手 ・ 溶接継手
・4.4.6 杭頭の処理等	4.3.8による

5節 場所打ちコンクリート杭地業	
○4.5.1 一般事項	(2) 工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ○ オールケーシング工法 ・ その他（ ）
○4.5.4 材料その他	(1) 鉄筋 5章による ※ 高炉セメント ○ その他（普通ポルトランドセメント） 設計基準強度 30 N/mm ² ・ A種 ※ B種 コンクリートの強度補正 設計基準強度を満足させるよう定める 杭径・杭長・長期許容支持力 ※ 設計図による 鋼管の使用 ※ なし ・ あり
○4.5.5 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法	(3) 超音波測定器による孔壁測定 ・ 行う ○ 行わない

6節 砂利、砂、捨コンクリート地業等	
○4.6.2 材料	(1) 砂利地業の材料 ※ 再生クラッシュラン ・ 切込み砂利及び切込み砕石
○4.6.3 砂利及び砂地業	(1) ・ 直接基礎床板下 ※ 60mm ・ 100mm ・ 150mm ○ 基礎床板下 ※ 60mm ○ 基礎梁下 ※ 60mm ○ 土間スラブ下 ^{注)} ○ 60mm ・ 100mm ・ 150mm 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。 ○ 土間コンクリート下 ・ 150mm ○ 100mm

○4.6.4 捨コンクリート	(1) 厚さ ※ 60mm ・ その他（ ） (2) (1)以外の項目は6章14節による。 ・ 土間スラブ下 ^{注)} （ mm） ・ 土間コンクリート下（ mm） 注)「土間スラブ」は、土に接する構造スラブのことをいう。
・付加 置換コンクリート	コンクリートの種別 ※ 普通コンクリート ※ 設計基準強度 18N/mm ² （構造体強度補正は行わない）
・付加 地盤改良地業	工法 工法名：（設計図による） ・ 洗層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による ・ 深層混合処理工法 適用範囲、仕様及び計測、試験は設計図による 六価クロム溶出試験 ※ 行う ・ 行わない 本節による。直接基礎、置換コンクリート地業及び地盤改良地業の支持層、長期許容支持力は下記による ・長期設計支持力は設計図による。 ・支持地盤は設計図による。

5章 鉄筋工事																																														
2節 材料																																														
○5.2.1 鉄筋	異形鉄筋SDはD38以下、丸鋼SR235及びSR295は13mm以下に適用する。 鉄筋の種類 <table border="1"> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径 (mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>異形鉄筋</td> <td>○SD295</td> <td>設計図による</td> <td>D10~D16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(鉄筋コンクリート用棒鋼)</td> <td>○SD345</td> <td>設計図による</td> <td>D19~D25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>JIS G 3112</td> <td>○SD390</td> <td>設計図による</td> <td>D29</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>・SD490</td> <td>設計図による</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>溶接閉鎖型せん断補強筋</td> <td>・SD295A</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・SD295B</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高強度せん断補強筋</td> <td>○SPR785</td> <td>設計図による</td> <td>T13</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(大臣認定品または性能評価取得品)</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 閉鎖型補強筋及び高強度せん断補強筋は材料の品質・加工方法ともに建築基準法に基づく性能評価の条件を満足するものとする。	規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考	異形鉄筋	○SD295	設計図による	D10~D16		(鉄筋コンクリート用棒鋼)	○SD345	設計図による	D19~D25		JIS G 3112	○SD390	設計図による	D29			・SD490	設計図による			溶接閉鎖型せん断補強筋	・SD295A				(大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B				高強度せん断補強筋	○SPR785	設計図による	T13		(大臣認定品または性能評価取得品)	・			
規格名称	種類の記号	使用箇所	呼び径 (mm)	備考																																										
異形鉄筋	○SD295	設計図による	D10~D16																																											
(鉄筋コンクリート用棒鋼)	○SD345	設計図による	D19~D25																																											
JIS G 3112	○SD390	設計図による	D29																																											
	・SD490	設計図による																																												
溶接閉鎖型せん断補強筋	・SD295A																																													
(大臣認定品または性能評価取得品)	・SD295B																																													
高強度せん断補強筋	○SPR785	設計図による	T13																																											
(大臣認定品または性能評価取得品)	・																																													
○5.2.2 溶接金網	(1) 溶接金網、鉄筋格子の寸法、径 JIS G 3551 <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>記号</th> <th>使用箇所</th> <th>呼び径・寸法・形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">溶接金網</td> <td rowspan="3">WFP</td> <td>鉄骨階段踏面</td> <td rowspan="3">φ6-100×100</td> <td rowspan="3">JIS規格品</td> </tr> <tr> <td>防水層保護コンクリート</td> </tr> <tr> <td>配管埋設用コンクリート</td> </tr> <tr> <td>スラブ内埋設管の集密部分</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td>SD295</td> <td>壁・スラブ開口補強</td> <td>D10、D13</td> <td></td> </tr> </table>	種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考	溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品	防水層保護コンクリート	配管埋設用コンクリート	スラブ内埋設管の集密部分			鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																										
種類	記号	使用箇所	呼び径・寸法・形状	備考																																										
溶接金網	WFP	鉄骨階段踏面	φ6-100×100	JIS規格品																																										
		防水層保護コンクリート																																												
		配管埋設用コンクリート																																												
スラブ内埋設管の集密部分																																														
鉄筋格子	SD295	壁・スラブ開口補強	D10、D13																																											

3節 加工及び組立											
○5.3.4 継手及び定着	(1) 継手の工法（設計図による） <table border="1"> <tr> <th>部位など</th> <th>継手工法と適用径の範囲</th> </tr> <tr> <td>柱主筋</td> <td>※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）</td> </tr> <tr> <td>梁主筋</td> <td>※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）</td> </tr> <tr> <td>スラブ、壁筋</td> <td>※ 重ね継手（ D10~D16 ） ・ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）</td> </tr> <tr> <td>杭主筋</td> <td>※ 重ね継手（ ） ※ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）</td> </tr> </table> 定着板の有無 ※ 無 ○ 有（設計図による） 使用箇所については、最上階柱頭部柱主筋とする。	部位など	継手工法と適用径の範囲	柱主筋	※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）	梁主筋	※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）	スラブ、壁筋	※ 重ね継手（ D10~D16 ） ・ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）	杭主筋	※ 重ね継手（ ） ※ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）
部位など	継手工法と適用径の範囲										
柱主筋	※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）										
梁主筋	※ 重ね継手（ ） ⊗ ガス圧接（ D19~D29 ） ・ 溶接継手（ ） ○ 機械式継手（ D19~D29 ）										
スラブ、壁筋	※ 重ね継手（ D10~D16 ） ・ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）										
杭主筋	※ 重ね継手（ ） ※ ガス圧接（ ） ・ 溶接継手（ ） ・ 機械式継手（ ）										
○5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	(1) コンクリートのかぶり厚さ ※ 最小かぶり厚さに10mm加える 耐久性上不利な箇所のかぶり厚は次による。 <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)</th> </tr> <tr> <td>外気に接する打放し面</td> <td>※ 10</td> </tr> </table> かぶり厚さは目地底から算定する 設計図にて寸法指定箇所を除き、設計図に示す鉄筋本数を等間隔に割り付ける。 特別な鉄筋継手のあき ※ 設計図による。	施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)	外気に接する打放し面	※ 10						
施工箇所	最小かぶり厚さに加える寸法 (mm)										
外気に接する打放し面	※ 10										

4節 ガス圧接	
○5.4.10 付加 圧接完了後の圧接部の試験	検査及び試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。 (4) 抜取試験の方法 ※ 超音波探傷試験 ・ 引張試験 引張試験の試験機関は原則として公的試験所とする。 超音波探傷試験の試験従事者は当該工事のガス圧接作業に従事しない者とし、技量及び経験の証明となる資料により整理者の承諾をうける。超音波試験の検査ロットは引張試験と同様とする。試験方法・判定基準は、JIS Z 3062によるものとし、試験の要領は（公社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。

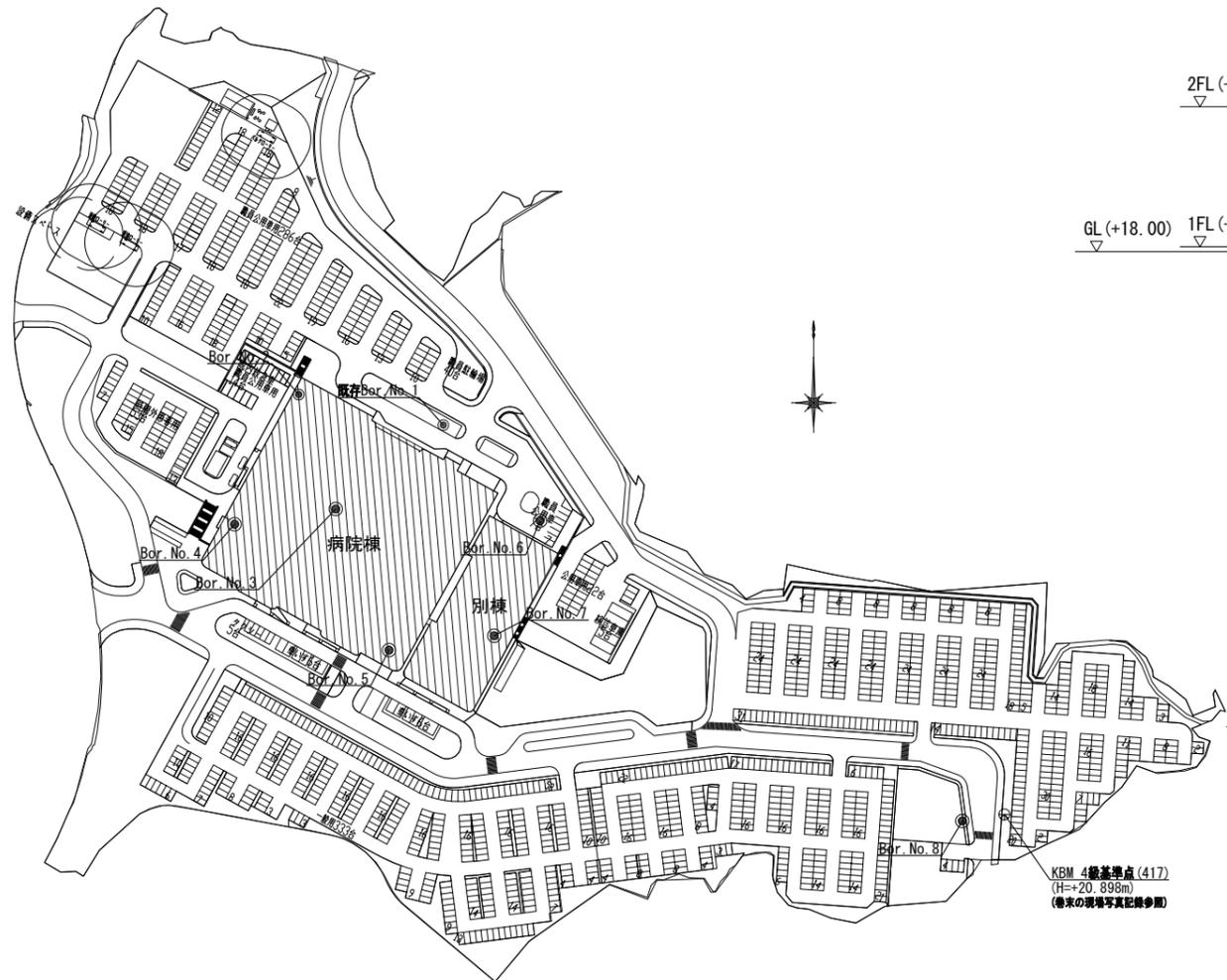
付加 付加	継手が溶接その他の特殊な工法による場合の試験は、前2号に準ずる抜取試験を行う。 超音波探傷試験の試験技術者は（公社）日本鉄筋継手協会による鉄筋継手部検査技術資格者16種、2種あるいは3種とする。 圧接完了後の試験の採取率及び判定基準			
	試験方法	ロット区分及び試料数	ロット当たりの採取本数及び採取率	判定基準
	引張試験	同一作業班が一日に施工した圧接箇所かつ200カ所程度以下を1ロットとする	引張試験採取本数（※3本）	引張試験では試料のすべてが、「最大引張強さが母材規格強度以上」を満足すること。 超音波探傷試験ではJIS Z 3062に示す判定基準にすべての箇所が合格すること。 不合格の場合は、5.4.11による。
	超音波探傷試験		超音波探傷試験の採取率（※30本）	

5節 機械式継手	
・5.5.1 一般事項	特殊な機械式継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す（※A級） 工法：（ ）
6節 溶接継手	
・5.6.1 一般事項	特殊な溶接継手の使用については、設計図にない場合は監理者に相談の上、設計者の了解を得ること。 告示1463号に示す（※A級） 工法：（ ）

その他配筋	
○付加 帯筋の組立て	○ H形 ・（スパイラル）SP形 ・ 溶接閉鎖形
○付加 梁貫通孔の補強	※ H形 ・ HM形 ・ M形 ※ 既製品 ・ スリーブ図に無い貫通孔が、必要な場合においても補強対象とし、本工事に含むものとする。 ・ 施工者側の理由により貫通孔が追加となる場合は、増減対象とみなさない。

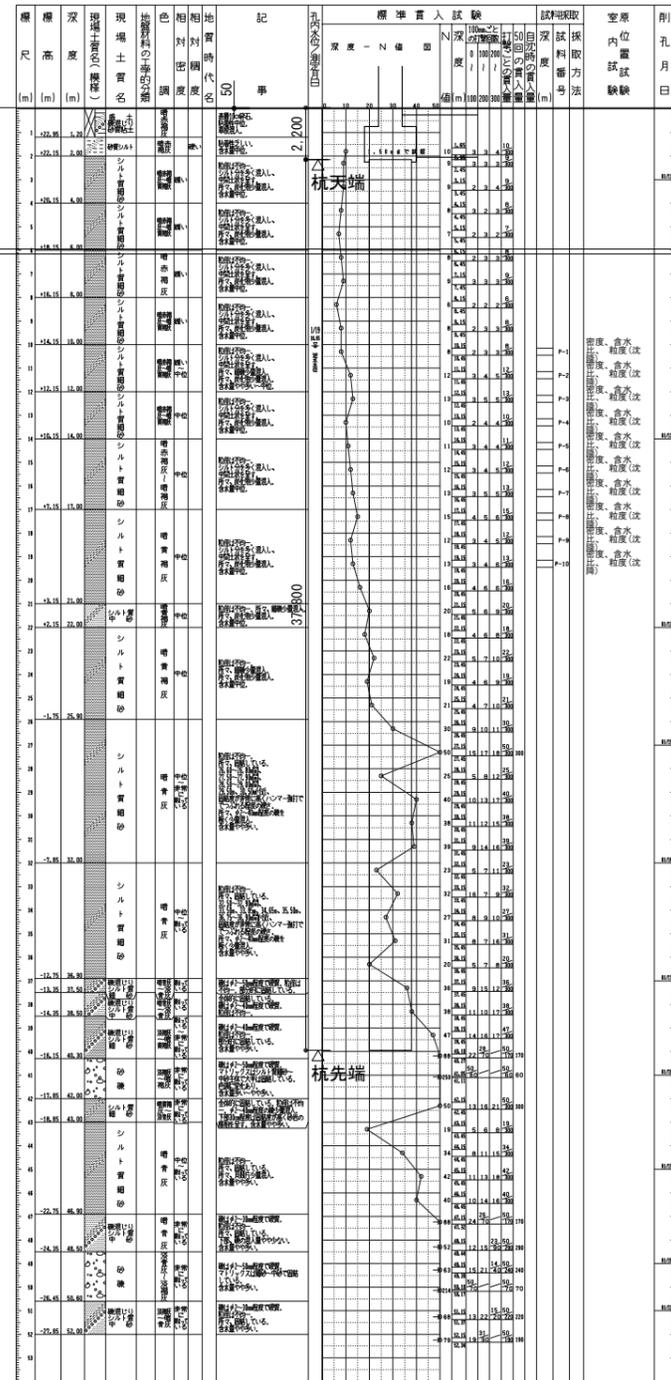
6章 コンクリート工事																													
2節 コンクリートの種類及び品質																													
○6.2.1 種類	コンクリートの種類 <table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>コンクリート種別</th> <th>設計基準強度 F_c (N/mm²)</th> <th>所要スラブ上限值 (kg/m³)</th> <th>単位水量の上限値 (kg/m³)</th> <th>構造体強度補正の有無</th> <th>使用箇所</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F_c 36</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>基礎・基礎梁・擁壁</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F_c 36</td> <td>18</td> <td>185</td> <td>有</td> <td>1階柱壁・2階梁床以上</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>普通コンクリート</td> <td>F_c 21</td> <td>15</td> <td>185</td> <td>無</td> <td>土間コン・押えコン</td> </tr> </table>	番号	コンクリート種別	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	所要スラブ上限值 (kg/m ³)	単位水量の上限値 (kg/m ³)	構造体強度補正の有無	使用箇所	1	普通コンクリート	F _c 36	15	185	有	基礎・基礎梁・擁壁	2	普通コンクリート	F _c 36	18	185	有	1階柱壁・2階梁床以上	3	普通コンクリート	F _c 21	15	185	無	土間コン・押えコン
番号	コンクリート種別	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	所要スラブ上限值 (kg/m ³)	単位水量の上限値 (kg/m ³)	構造体強度補正の有無	使用箇所																							
1	普通コンクリート	F _c 36	15	185	有	基礎・基礎梁・擁壁																							
2	普通コンクリート	F _c 36	18	185	有	1階柱壁・2階梁床以上																							
3	普通コンクリート	F _c 21	15	185	無	土間コン・押えコン																							
○6.2.2 強度	(1) レディーミクストコンクリートの種別 ※ I類(JIS Q 1001 及び JIS Q 1011 に基づき、JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・ II類(I類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート) (3) 建築基準法第37条第二号に規定する国土交通大臣の認定を受けたコンクリートの使用 ※ 無 ・ 有																												
○6.2.3 気乾単位容積質量	(1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量 ※ 2.3 t/m ³ ・（ ） t/m ³																												
○6.2.5 構造体コンクリートの仕上り	(2) 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げの種別 ※ 建築特記による。																												

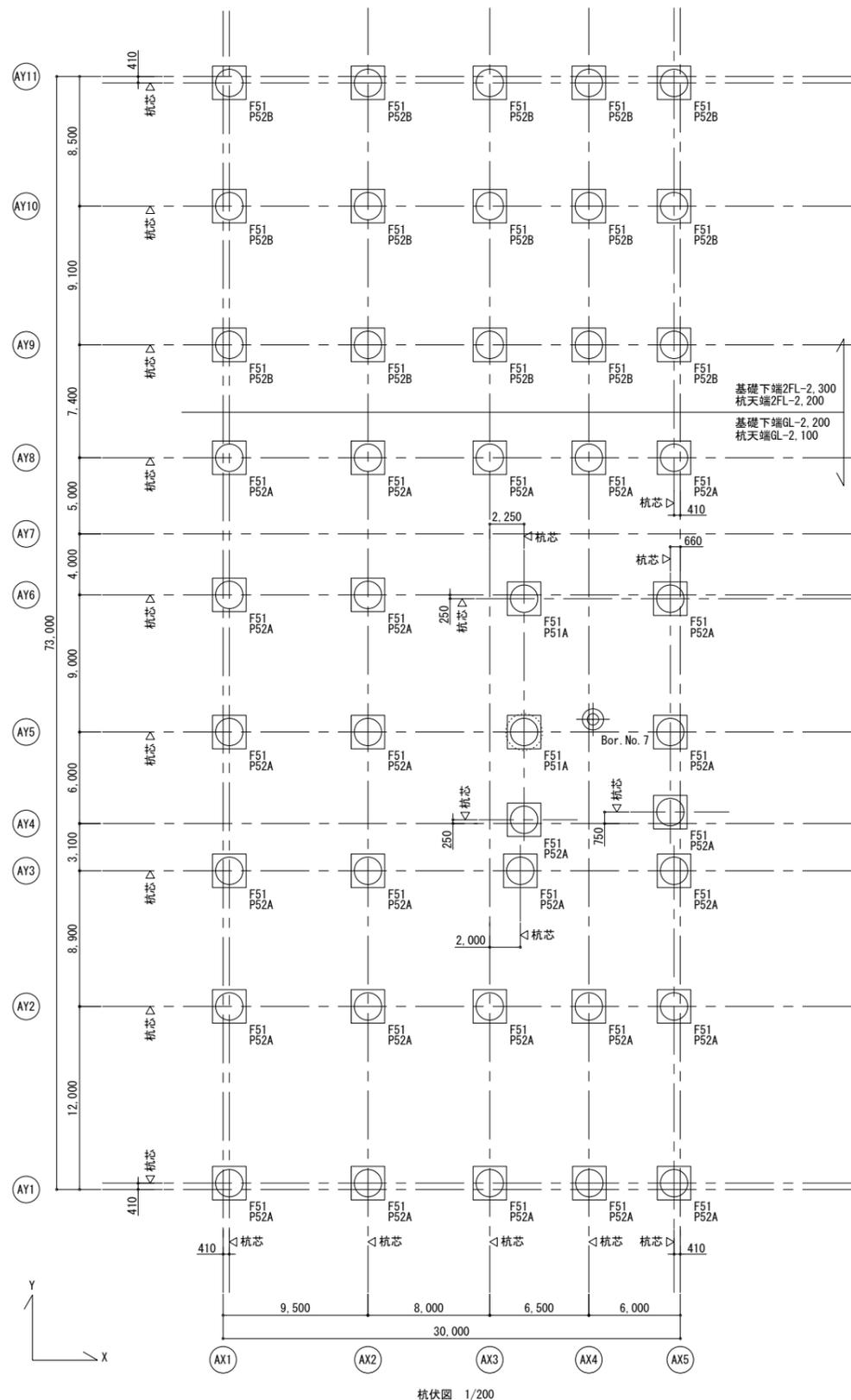
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事（建築工事）	図面名称	構造特記仕様書（1）（別館棟）			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号	S - 101	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要		計	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印			管理建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			設計	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
		製図	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



2FL (+24.20)
6,000
GL (+18.00) 1FL (+18.00)
200

ボーリング名	6	調査位置	沖縄県名護市大北1丁目15-9	北緯	26°36'02.71"
発注機関	株式会社 内藤建築事務所	調査期間	2024年 1月10日~2024年 1月24日	東経	127°59'19.35"
調査業者名	株式会社 内藤建築事務所 〒904-8282 名護市大北1丁目15-9 電話: 098-878-4289	主任技師	比嘉 大樹 第20733号	調査者	比嘉 大樹 第20733号
孔口標高	+24.15m	試錐機	古田 YBM-05DA-2	ボアログ	山崎 清繁 第23933号
総孔長	52.00m	ポンプ	サンマー NFD-10MK	ボンプ	古田 GP-5

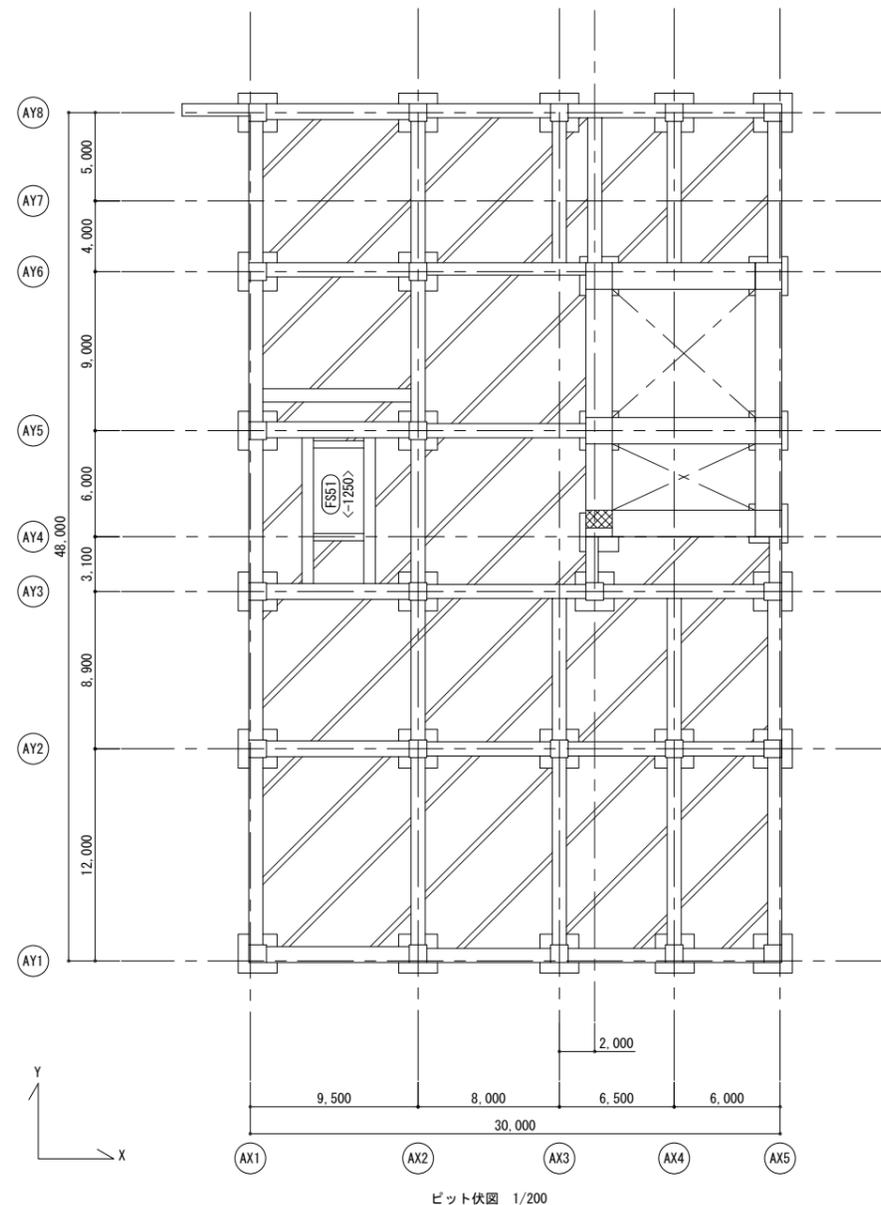




杭伏図 1/200

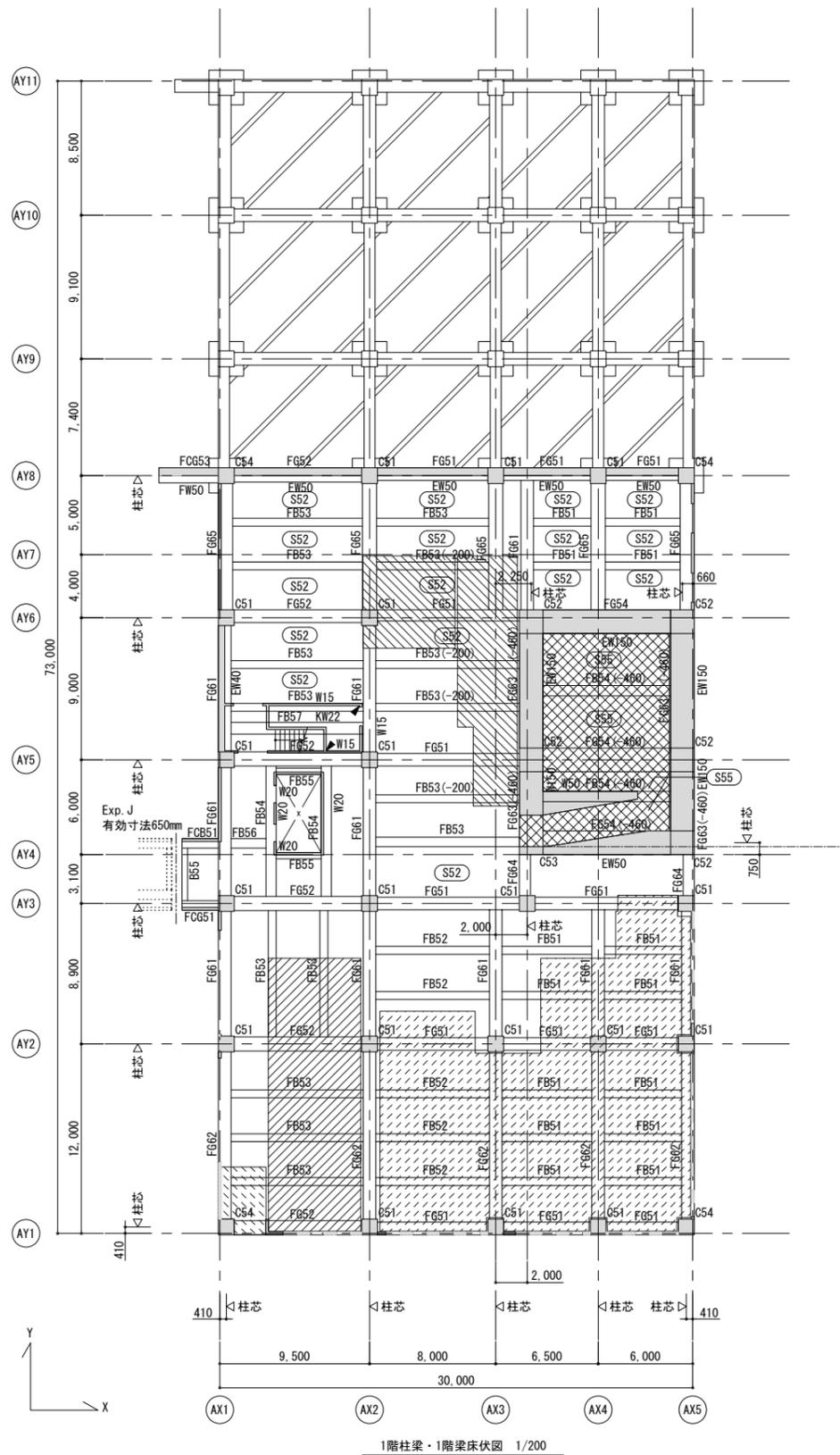
- 特記なき限り下記による
- 杭天端レベル：GL-2100
[]内数値は、GLからの杭天端レベルを示す。
 - 基礎下端レベルGL-2200
()内数値は、GLからの基礎下端レベルを示す。
 - < >内数値は、1FLからの底盤天端レベルを示す。
 - ⊕ ボーリング調査位置を示す。
 - 試験杭は2箇所とし、位置は監理者と協議して決定する。

- 特記なき限り下記による
- 1FL=GL+200
 - 一般スラブ FS51
< >内数値は、1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 - 埋戻し範囲を示す。
 - 土間コンクリート範囲を示す。天端レベルは意匠図による。
 - 増打コンクリートを示す。



ピット伏図 1/200

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	杭伏図・基礎ピット伏図 (別館棟)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/200 [A3] 1/400	図面番号	S - 115
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	一級建築士 山田 剛	登録番号	登録第310062号
		製図	一級建築士 末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士 丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



特記なき限り下記による

1. 1FL=GL+200
2. 一般スラブ S51
3. 一般壁 W18
4. 基礎梁天端 1FL-400
基礎小梁天端 1FL-160
()内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。
5. 一般スラブ天端 1FL-10

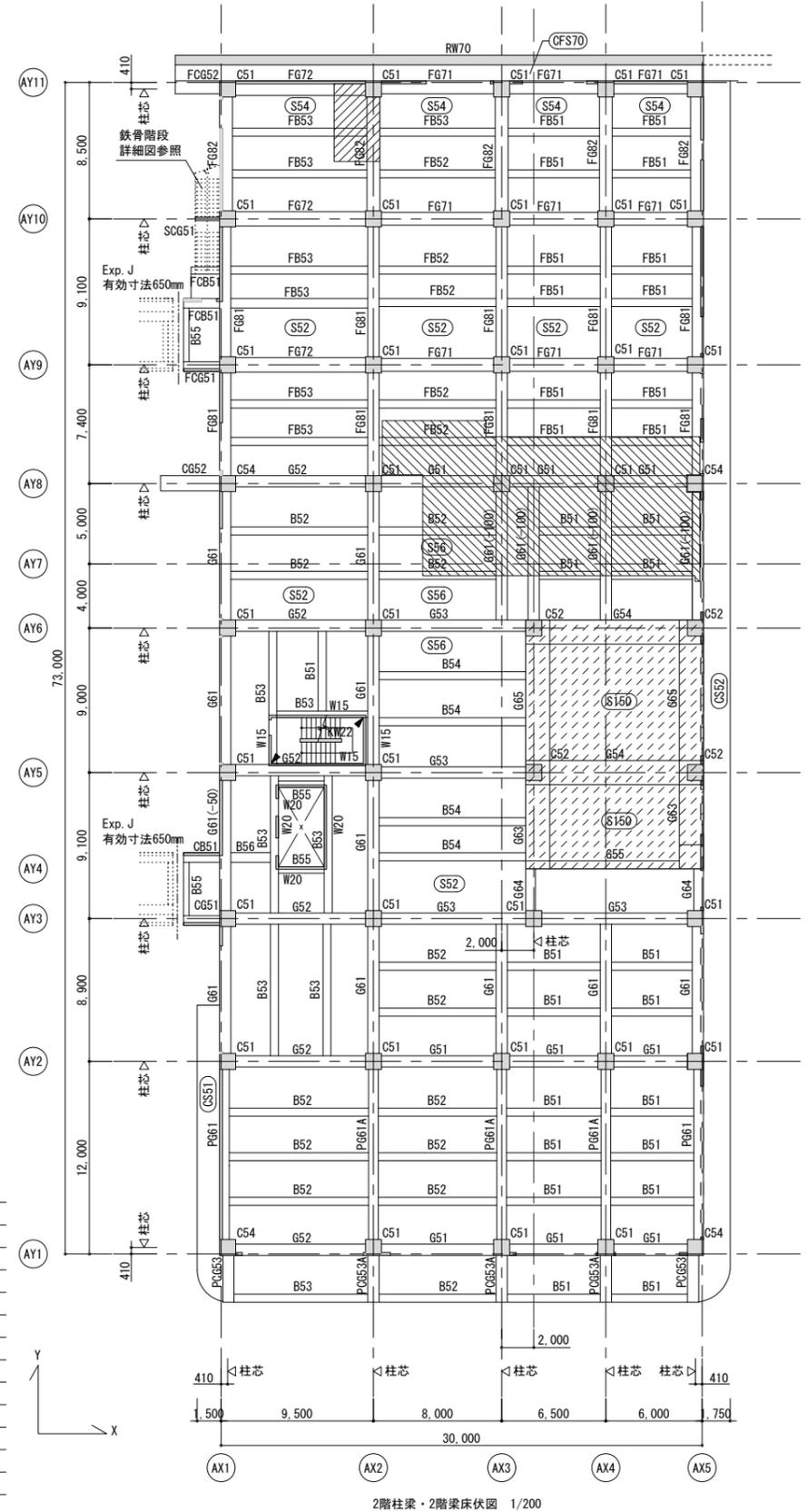
	1FL-15
	1FL-50
	1FL-100
	1FL-200
	1FL-460
6. 土間コン範囲を示す。天端レベルは意匠図による。

1階柱梁・1階梁床伏図 1/200

特記なき限り下記による

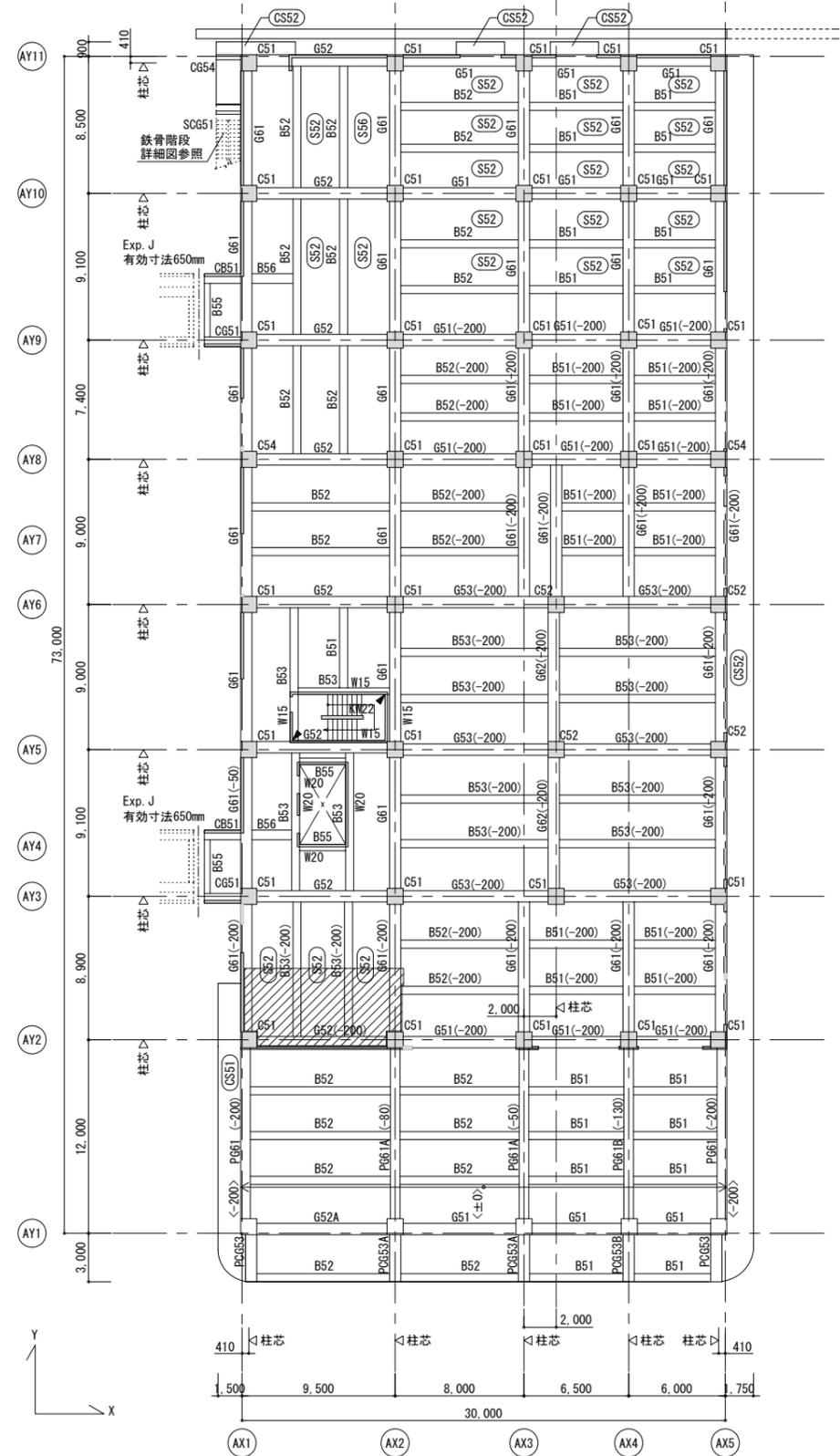
1. 一般スラブ S51
2. 一般壁 W18
3. 梁天端 2FL-10
F600 2FL-300
()内数値は、2FLからの梁天端レベルを示す。
小梁天端は接続するスラブ天端に倣うこと。
5. 一般スラブ天端 2FL-10

	2FL-100
	2FL-200
	2FL-300
6. は、床開口を示す。
7. 増打コンクリートを示す。
8. 鉛直スリットを示す。
フレーム内のスリットは軸組図による。

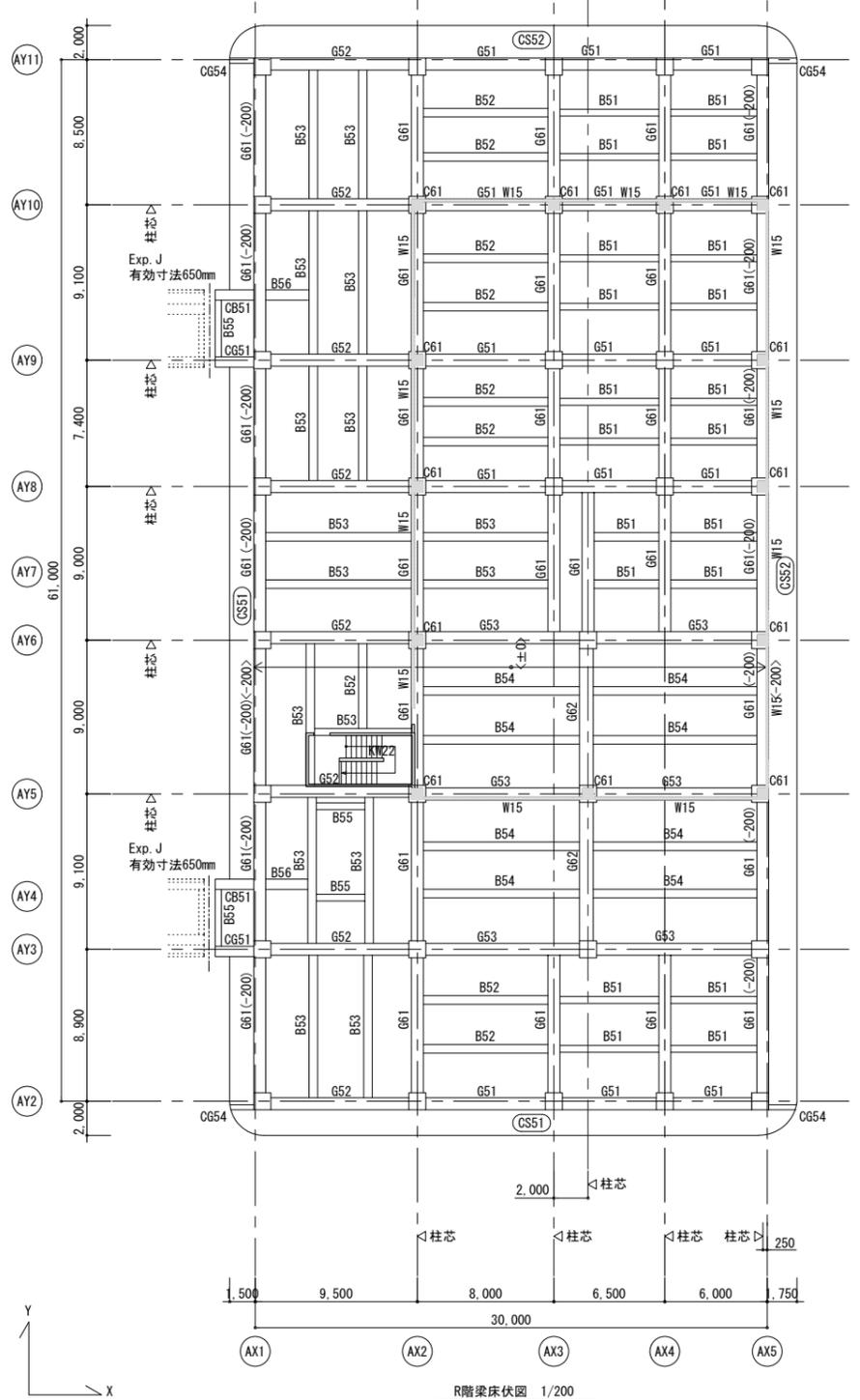


2階柱梁・2階梁床伏図 1/200

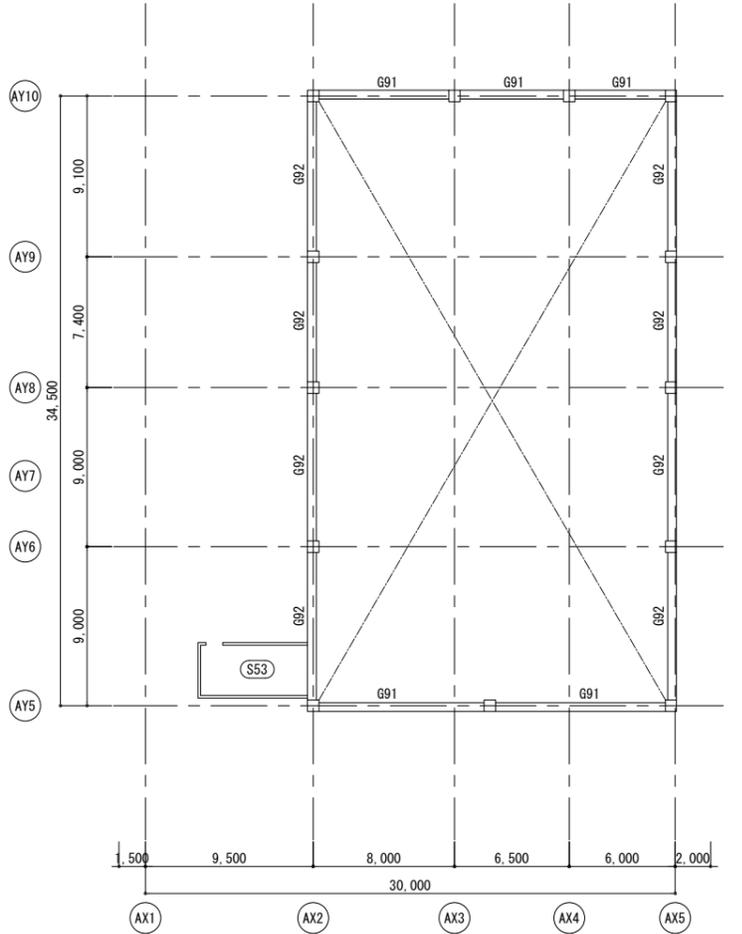
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	1階柱梁・1階梁床伏図、2階柱梁・2階梁床伏図 (別館棟)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/200 [A3] 1/400	図面番号	S - 116
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
		二級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
		一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号



- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S51
 2. 一般壁 W18
 3. 梁天端 3FL-10
 - ()内数値は、3FLからの梁天端レベルを示す。
 5. 一般スラブ天端 3FL-10
 - 3FL-200
 6. → は、スラブ勾配を示す。
 - < >内数値は、3FLからのスラブ天端レベルを示す。
 7. □ は、床開口を示す。
 8. ⊞ 増打コンクリートを示す。
 9. ▲ 鉛直スリットを示す。
- フレーム内のスリットは軸組図による。

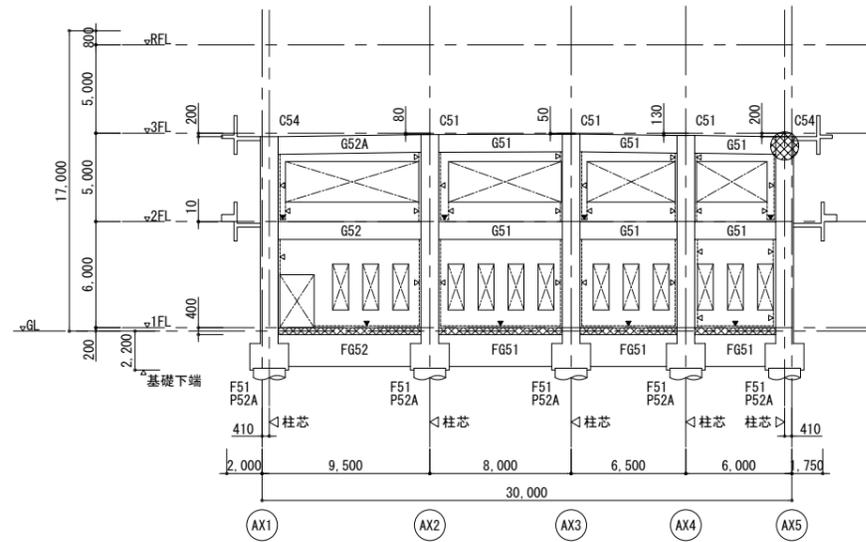


- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S52
 2. 梁天端 屋根勾配による
 3. 一般スラブ天端 屋根勾配による
 4. → は、スラブ勾配を示す。
 - < >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。
 5. ⊞ 増打コンクリート範囲を示す。

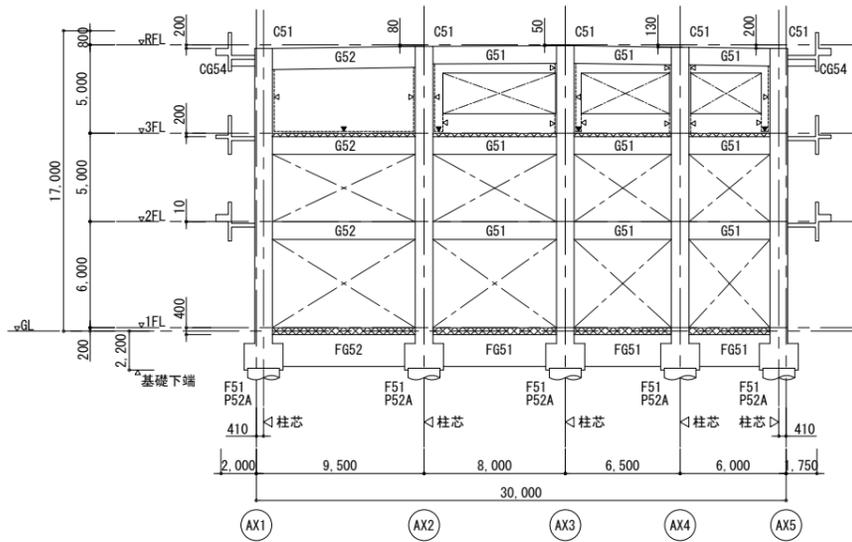


- 特記なき限り下記による
1. 一般スラブ S53
 2. 梁天端 RFL+3000
 - ()内数値は、RFLからの梁天端レベルを示す。
 3. 一般スラブ天端 RFL+3400
 4. → は、スラブ勾配を示す。
 - < >内数値は、RFLからのスラブ天端レベルを示す。
 5. ⊞ 増打コンクリート範囲を示す。

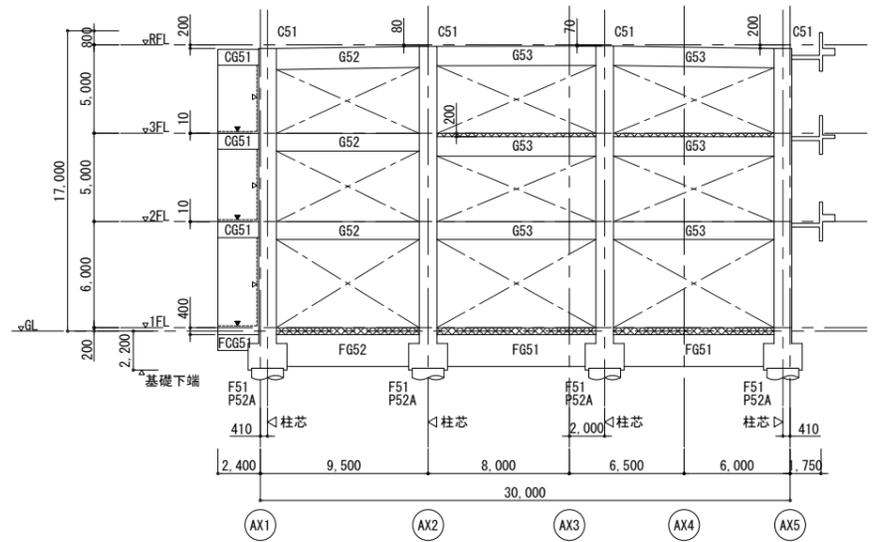
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	3階柱梁・3階梁床伏図、R階梁床伏図 (別館棟)		
工事場所	沖縄県護国寺大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/200 [A3] 1/400	図面番号	S - 117
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第 1-12326 号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製	図	
	一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号	
	一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号	
	一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	



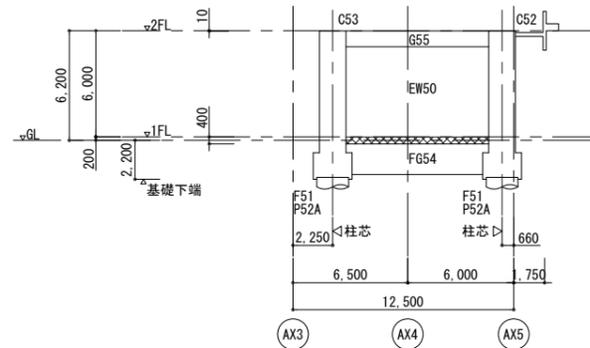
AY1通軸組図



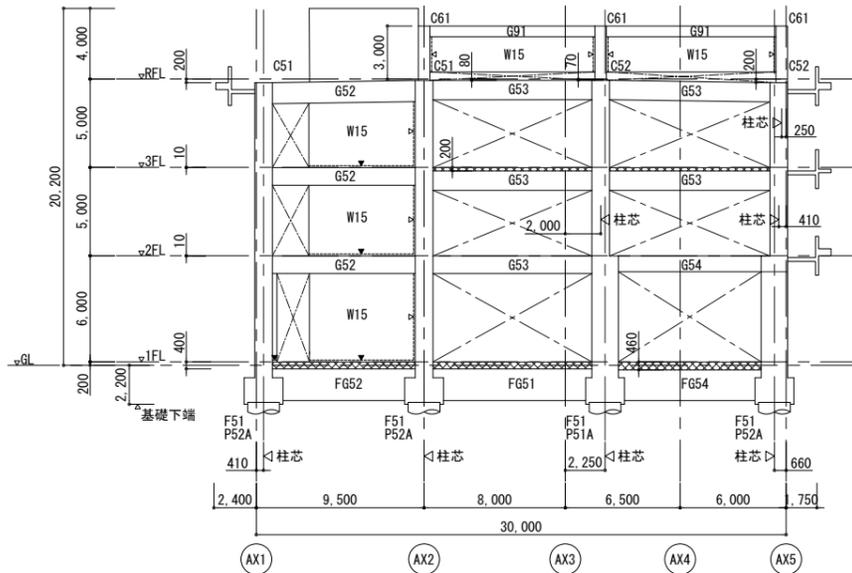
AY2通軸組図



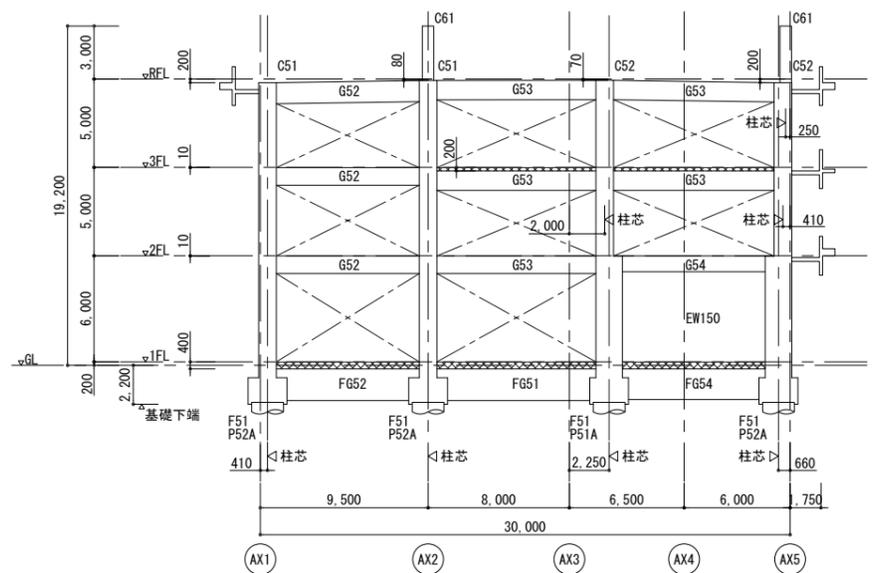
AY3通軸組図



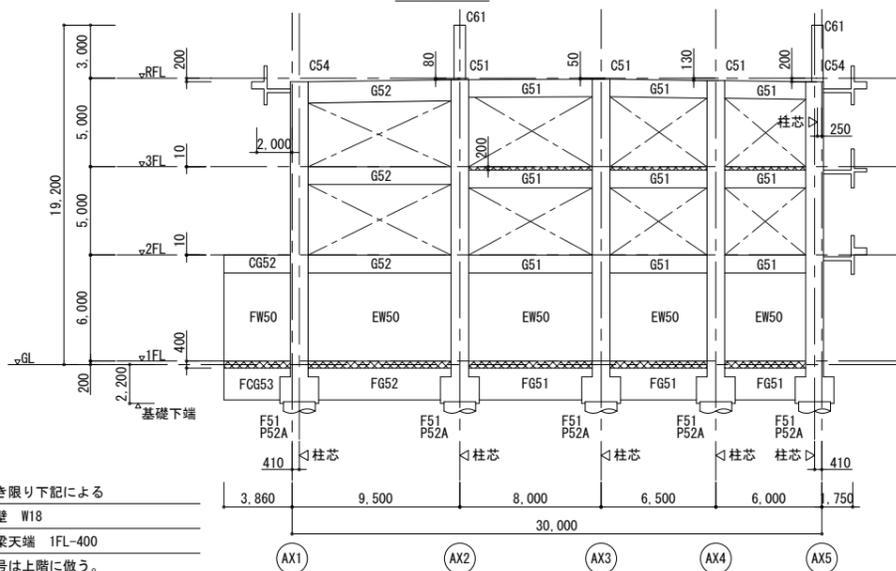
AY4通軸組図



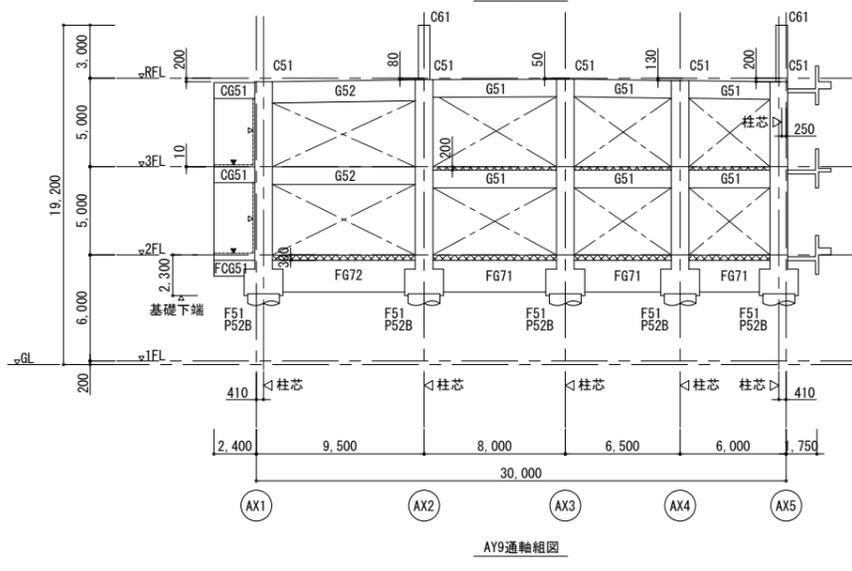
AY5通軸組図



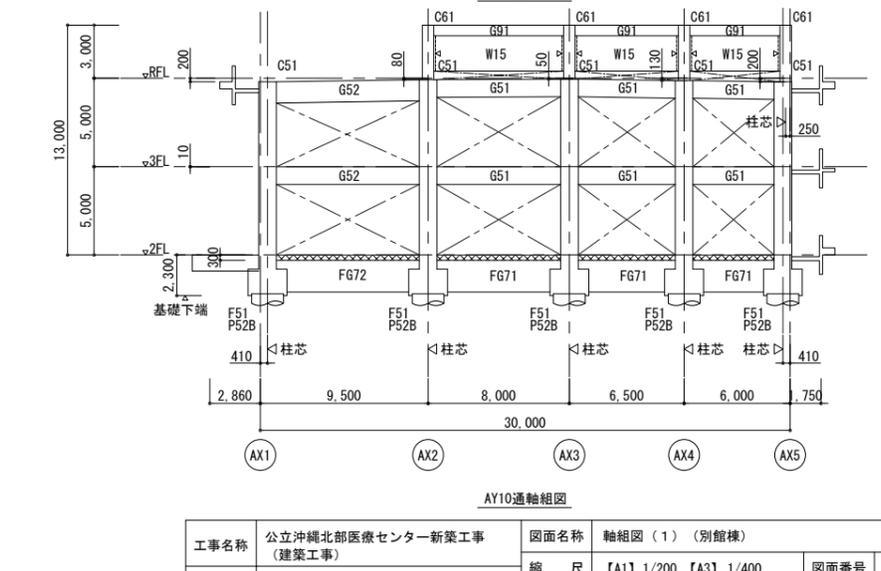
AY6通軸組図



AY8通軸組図



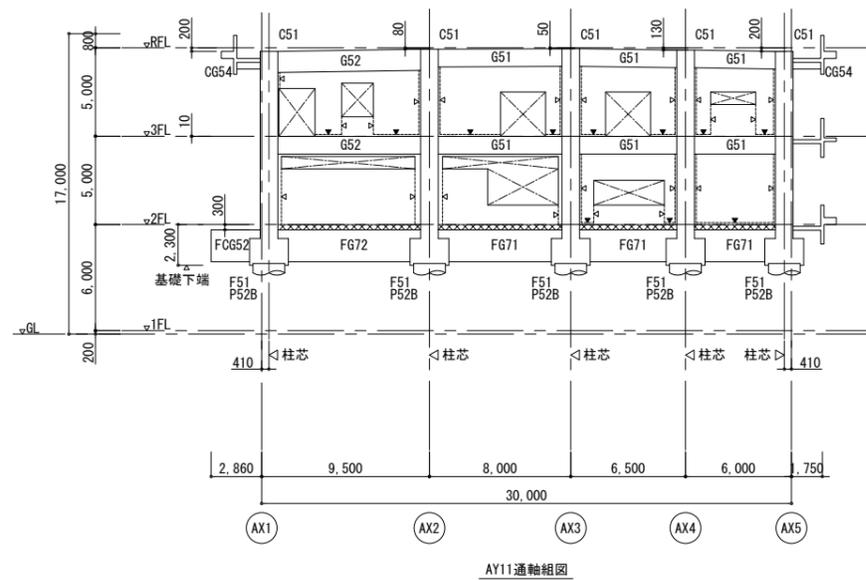
AY9通軸組図



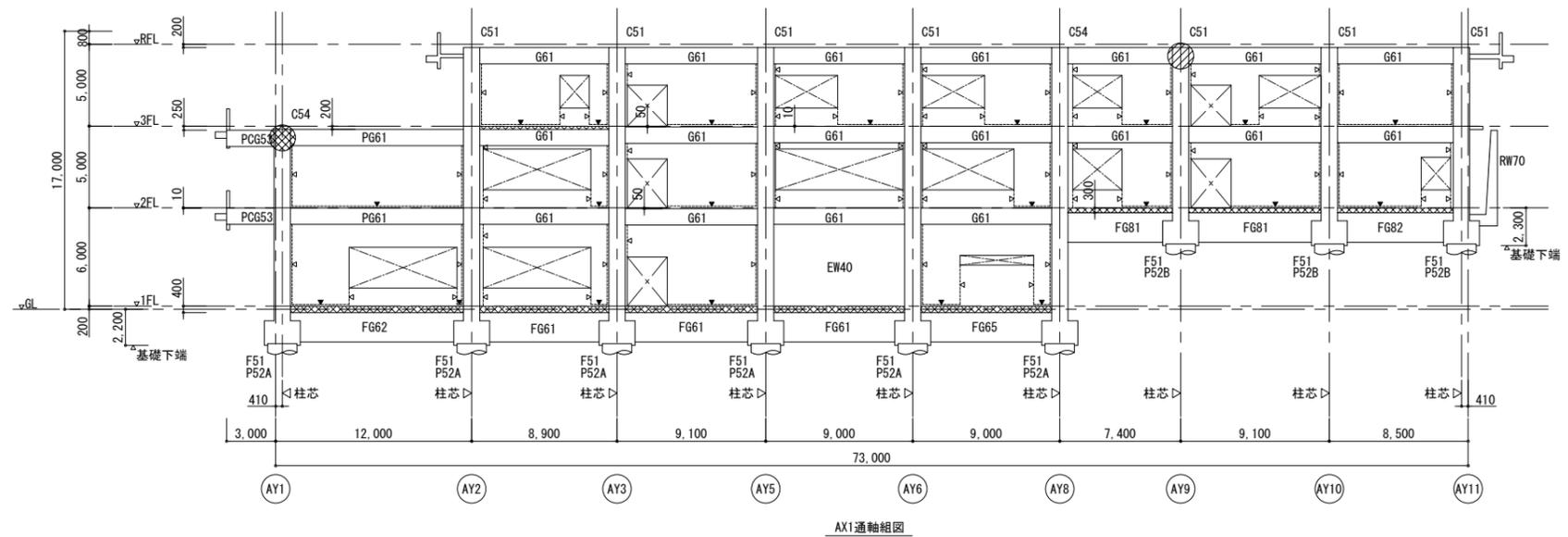
AY10通軸組図

- 特記なき限り下記による
- 一般壁 W18
 - 地中梁天端 1FL-400
 - 柱符号は上階に倣う。
 - 鉛直スリットを示す。
水平スリットを示す。
 - 増打コンクリートを示す。
 - 定着板の使用不可箇所を示す。

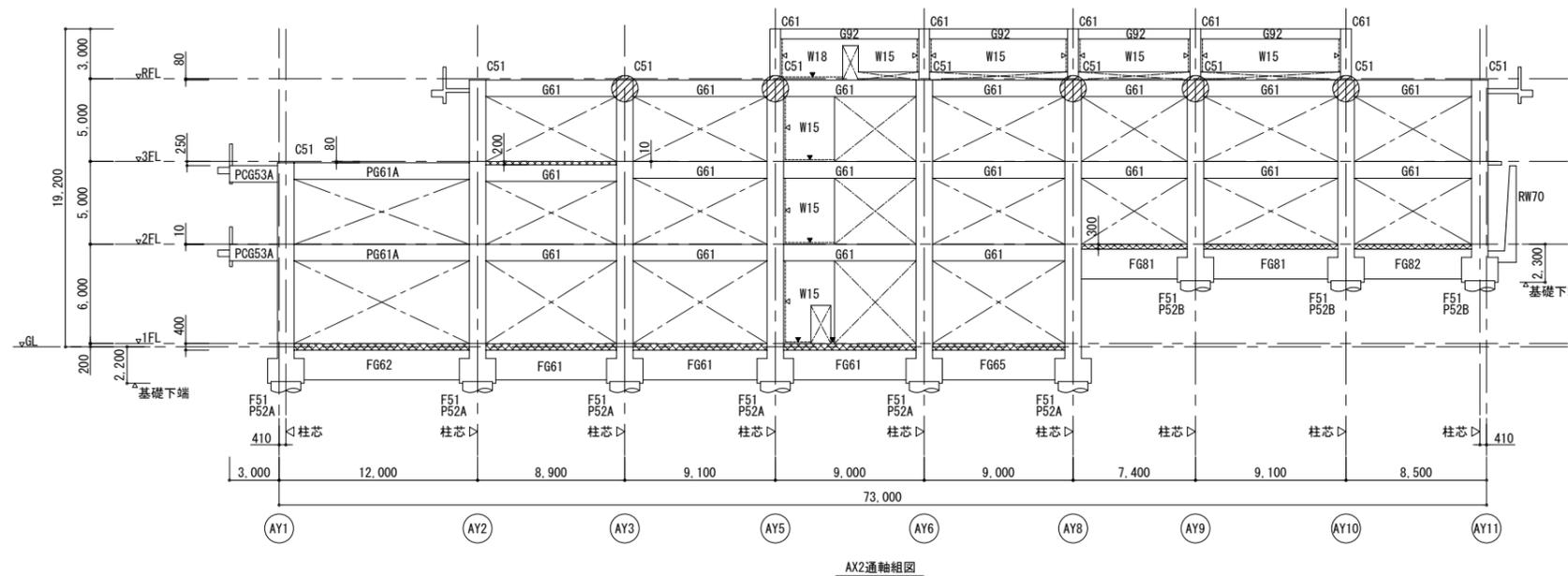
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(1) (別館棟)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/200 [A3] 1/400
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S-118
工事年度	令和7年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
概要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
		登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
検印		一級建築士	山田 剛
		一級建築士	末吉 謙太郎
		一級建築士	丸山 茂義



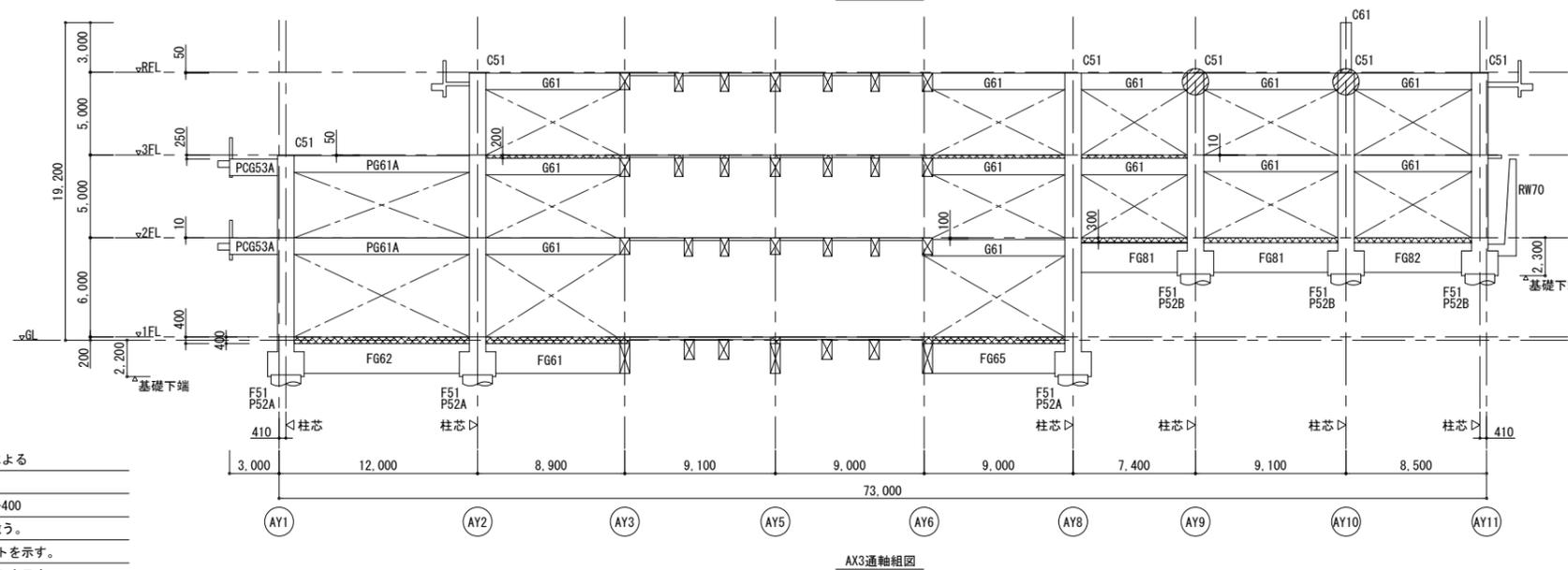
AX11通軸組図



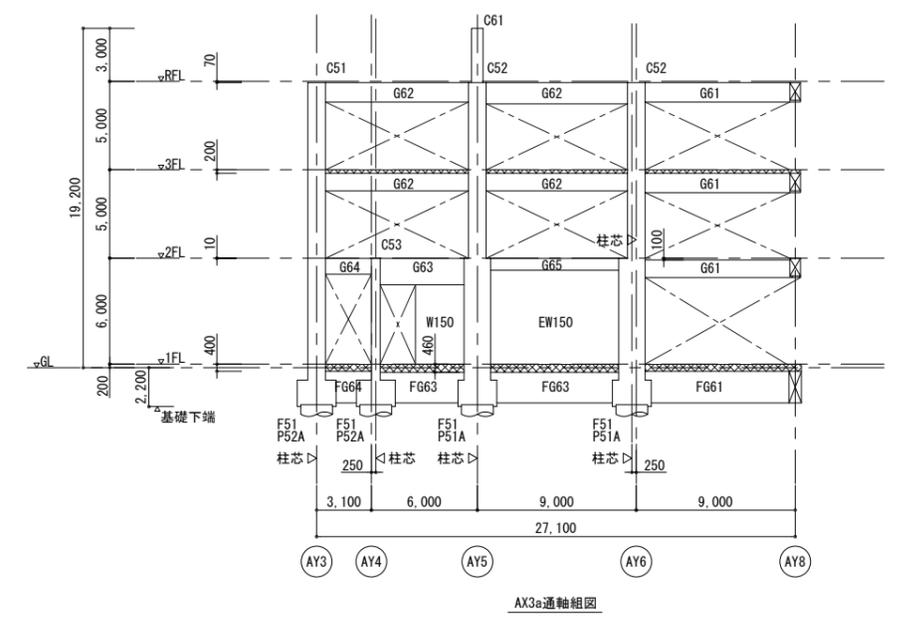
AX1通軸組図



AX2通軸組図



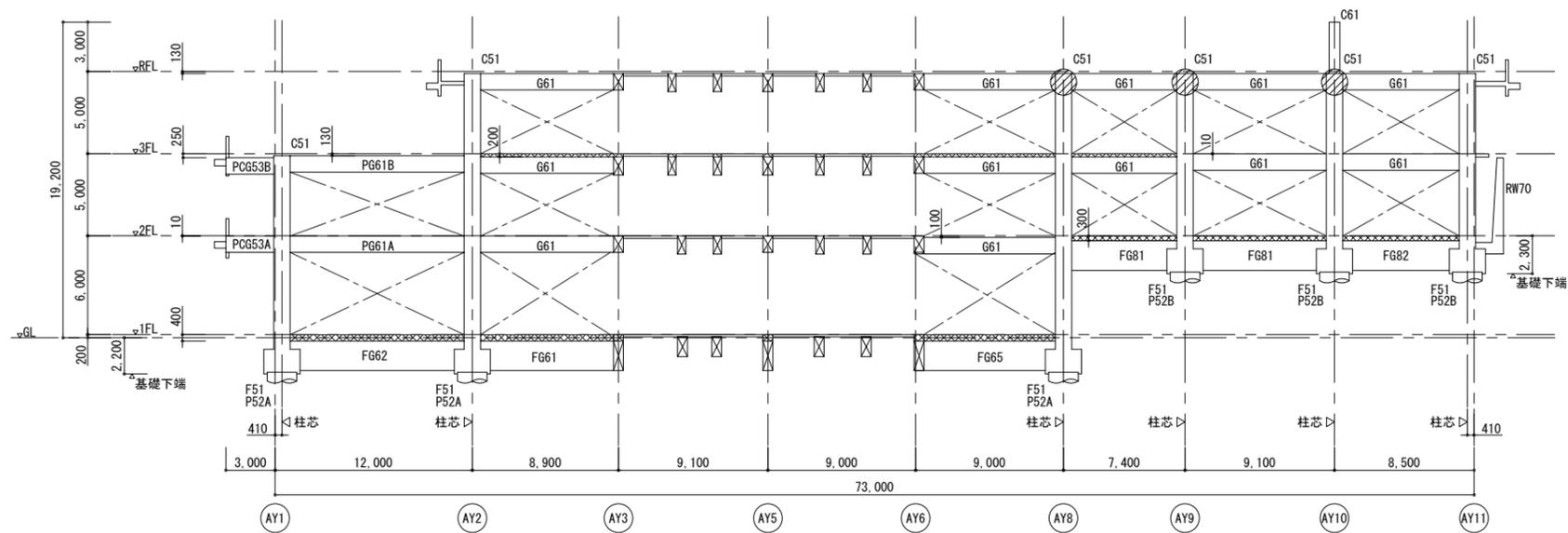
AX3通軸組図



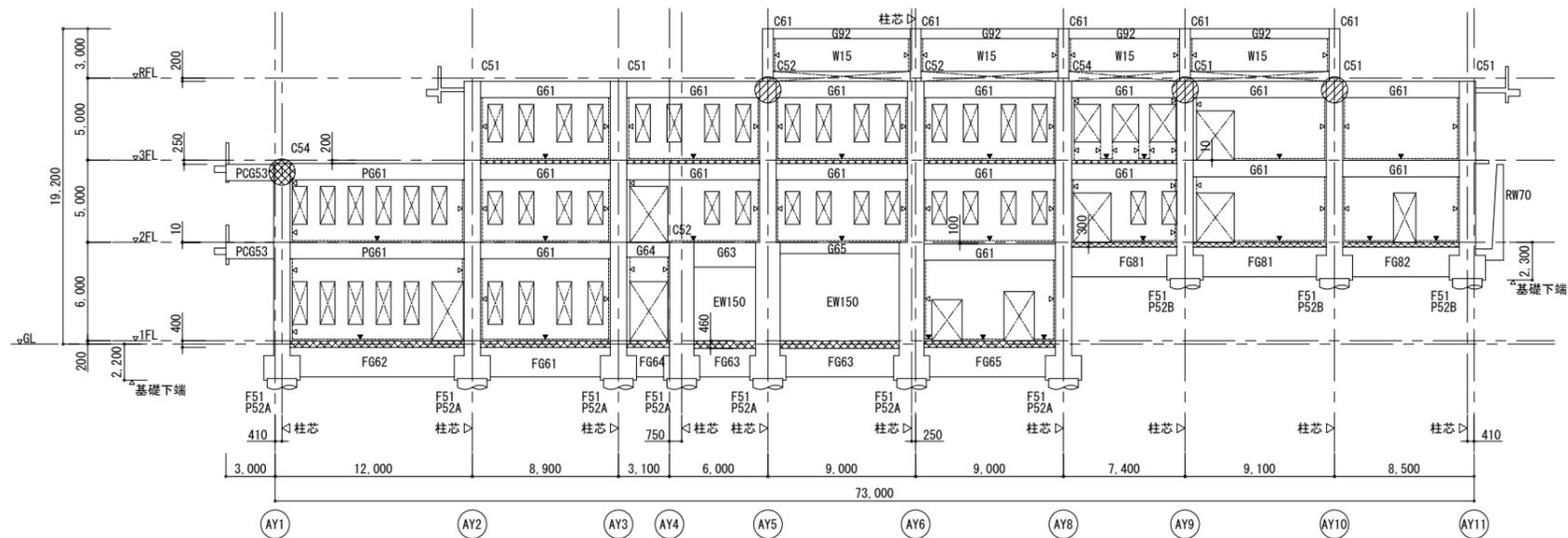
AX3a通軸組図

- 特記なき限り下記による
- 一般壁 W18
 - 地中梁天端 1FL-400
 - 柱符号は上階に倣う。
 - 鉛直スリットを示す。
▼ 水平スリットを示す。
 - 増打コンクリートを示す。
 - 定着板の使用不可箇所を示す。
 - 定着板の柱頭部定着長を梁せいひの0.85倍かつ16dc以上とする箇所。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(2) (別館棟)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/200 【A3】 1/400
発注機関	沖縄県北部医療組合	図面番号	S - 119
工事年度	令和 7 年度	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
摘要	管理建築士 設計 製図	代表企業	株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第 1-12326 号
		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
検印		一級建築士	山田 剛 登録番号 登録第310062号
		一級建築士	末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 第9280号
		一級建築士	丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 第1058号



AX4通軸組図



AX5通軸組図

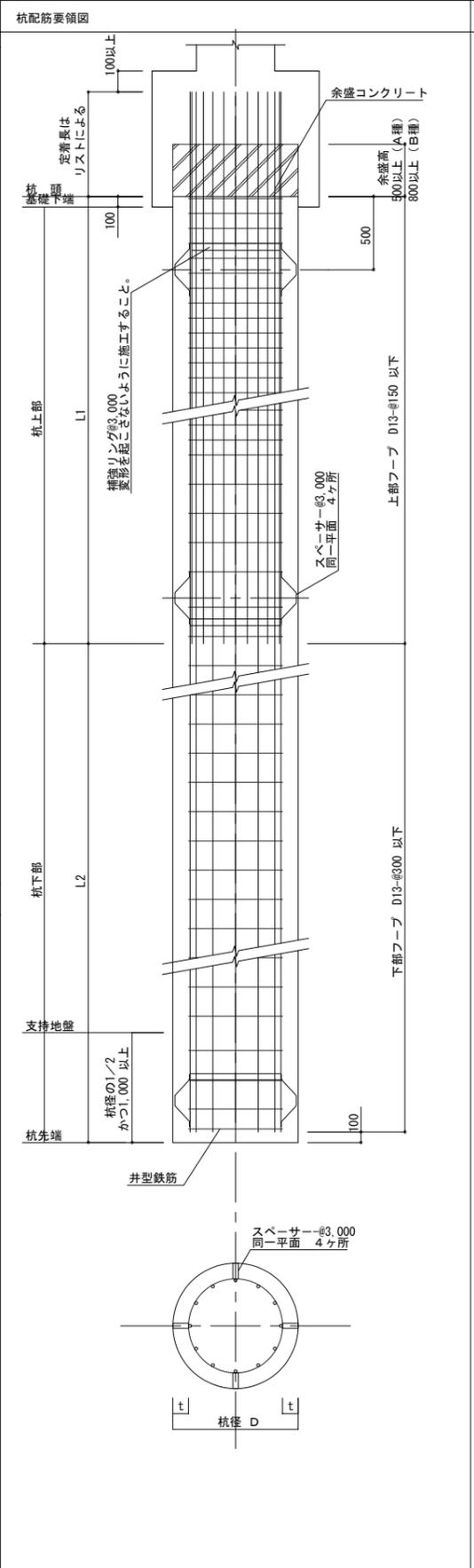
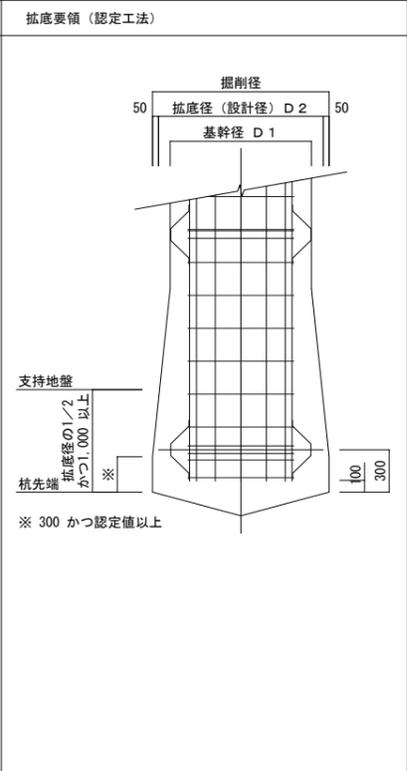
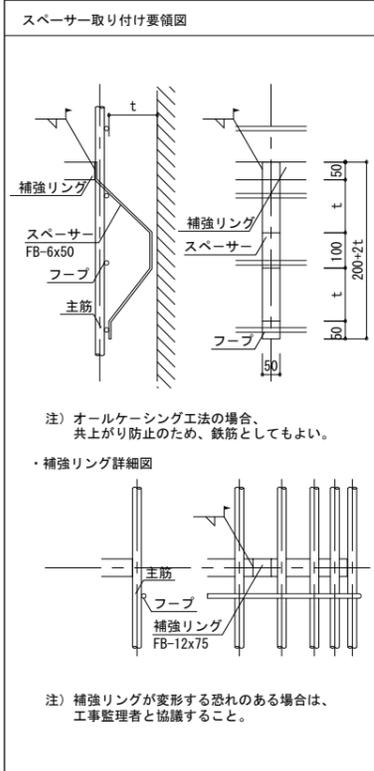
特記なき限り下記による

1. 一般壁 W18
2. 地中梁天端 1FL-400
3. 柱符号は上階に効く。
4. 鉛直スリットを示す。
▼ 水平スリットを示す。
5. 増打コンクリートを示す。
6. 定着板の使用不可箇所を示す。
7. 定着板の柱頭部定着長を梁せいの0.85倍かつ16dc以上とする箇所。

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	軸組図(3) (別館棟)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/200 【A3】 1/400	図面番号	S - 120
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録 第1-12326号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図	登録番号	登録第310062号
				登録番号	登録第335522号 第9280号
				登録番号	登録第173320号 第1058号

場所打ちコンクリート杭 (全周回転式オールケーシング工法) 共通事項

共通事項	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築工事標準仕様書 (建築工事編) 令和4年版			
工法	あらかじめ杭施工計画書を工事監理者に提出して承諾を受ける。			
コンクリート	普通コンクリート	強度 F_c	3 ON/mm ²	
		スランプ	21	
コンクリートの種別	種別	水セメント比の最大値 (%)	粗骨材の最大寸法 (mm)	単位セメント量の最大値 (kg/m ³)
	・ A種	60	25 (20)	310
	※ B種	55		340
	() 内は、砕石及び高炉スラグ砕石使用の場合			
セメントの種別	※ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種			
鉄筋	主筋	※SD345 ⊙SD390 ・ SD490 継手：重ね継手長さは45d以上 (SD345、SD390)、50d以上 (SD490) とし、主筋1本につき3ヶ所以上の番線結束とする。 (機械式継手を使用する場合には、あらかじめ工事監理者の承諾を受ける。)		
	フープのかぶり厚さ	t=150		
	フープ	※SD295 継手：200mm以上の重ね継手とし、溶接長さ10d以上の片面フレアグループ溶接とする。 主筋との交差部を鉄線で干鳥状に結束する。		
補強リング	材質	SS400 端部は100mm以上の重ねをとり、一層盛の隅肉溶接とする。		
スペーサー	材質	SS400 補強リング1平面当り4ヶ所とし、補強リングに溶接し、固定する。 主筋への溶接は、不可とする。		
安定液	ベントナイト安定液の使用	※有 ⊙無		
底ざらい工法	底ざらい工法は、あらかじめ施工要領書を工事監理者に提出して、承諾を受ける。			
孔壁測定	超音波孔壁測定	※有 ⊙無 ※P51Aのみ実施		
杭長	工事監理者立会のもと、試験掘削を行い、支持層を確認の上、最終決定すること。 試験掘削の位置は、杭伏図による。杭伏図に明記されていない場合は、最初の1本目とする。			

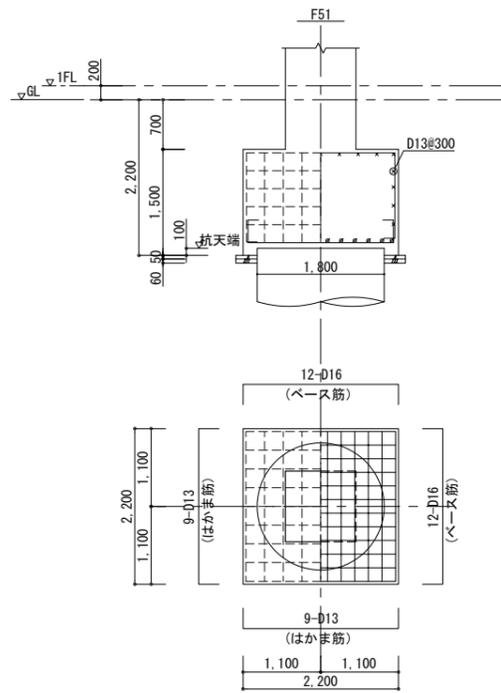


杭リスト

杭符号	P51A	P52A	P52B	
杭上部	軸径	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	主筋	27-D29	27-D29	27-D29
	フープ	D13@150	D13@150	D13@150
杭下部	長さL1 (m)	9.0	9.0	9.0
	軸径	φ1,800	φ1,800	φ1,800
	主筋	18-D29	18-D29	18-D29
	フープ	D13@300	D13@300	D13@300
	長さL2 (m)	24.2	24.2	28.8
掘削径 (設計径)	φ2,000	φ1,800	φ1,800	
杭長 (m)	33.2	33.2	37.8	
長期支持力 (kN)	11,500	10,320	9,650	
杭本数 (本)	2	27	15	

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	杭リスト (別館棟)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1] 1/30 [A3] 1/60	図面番号	S - 121	
発注機関	沖縄県北部医療組合			設 計 者	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要					所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図		一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第33522号 第9280号	
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号	

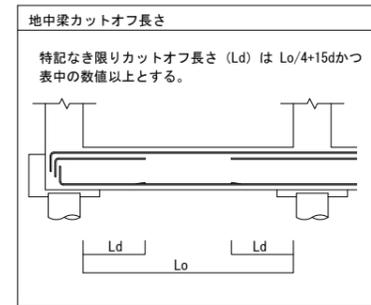
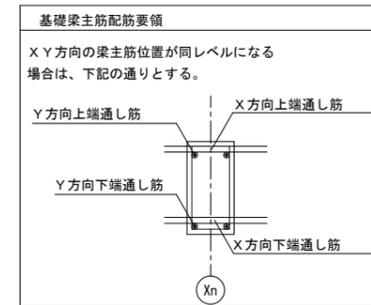
基礎リスト 1/50 特記なき限り下記による
・フーチングの方向は基礎伏図による。



基礎梁リスト 1/50 特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@100とする。

符号	FG51		FG52			FG54	FG61		FG62			FG63	FG64	FG65		
	端部	中央	AX1端	中央	AX2端	全断面	端部	中央	AY1端	中央	AY2端	全断面	全断面	AY6端	中央	AY8端
断面																
B×D	800×1,800		900×1,800			1,500×1,740	800×1,800		800×1,800			1,500×1,740	700×1,800	900×1,800		
上端筋	13-D29	12-D29	15-D29	14-D29	14-D29	17-D29	12-D29	10-D29	14-D29	12-D29	12-D29	17-D25	10-D29	12-D29	15-D29	15-D29
下端筋	12-D29	12-D29	15-D29	14-D29	14-D29	17-D29	12-D29	10-D29	14-D29	12-D29	12-D29	17-D25	10-D29	12-D29	15-D29	15-D29
あばら筋	□-D13@100		□-D13@100			□-D13@100	□-D13@100		□-D13@100			□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100		
腹筋	10-D13		10-D13			10-D13	10-D13		10-D13			10-D13	10-D13	10-D13		

符号	FG71	FG72			FG81	FG82		
	全断面	AX1端	中央	AX2端	全断面	AY10端	中央	AY11端
断面								
B×D	800×1,800	900×1,800			700×1,800	800×1,800		
上端筋	13-D29	17-D29	17-D29	16-D29	10-D29	11-D29	11-D29	14-D29
下端筋	13-D29	16-D29	16-D29	13-D29	10-D29	11-D29	11-D29	14-D29
スタップ	□-D13@100	□-D13@100			□-D13@100	□-D13@100		
腹筋	10-D13	10-D13			10-D13	10-D13		



基礎小梁リスト 1/50 特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@100とする。※付符号の腹筋は柱にL2定着とする

符号	FB51		FB52		FB53		FB54		FB55	FB56	FB57
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面
断面											
B×D	400×600		500×900		500×1,000		650×1,500		400×1,350	500×900	750×1,800
上端筋	6-D22	4-D22	7-D22	5-D22	8-D22	5-D22	8-D22	6-D22	4-D22	8-D22	13-D25
下端筋	4-D22	4-D22	5-D22	5-D22	5-D22	7-D22	6-D22	11-D22	4-D22	5-D22	13-D25
スタップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@150		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@150
腹筋	2-D10		4-D10		4-D10		8-D10		8-D10	4-D10	10-D10

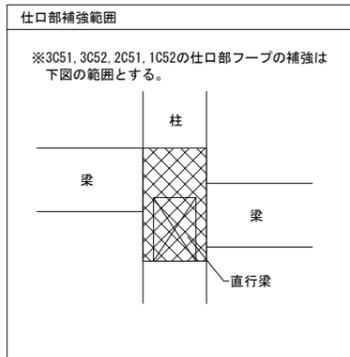
符号	FCG51		FCB51		FCG52		FCG53
	基端	先端	基端	先端	基端	先端	全断面
断面							
B×D	500×900		500×900		800×1,800		950×1,800
上端筋	8-D25	5-D25	8-D22	5-D22	11-D29	7-D29	11-D29
下端筋	5-D25	5-D25	5-D22	5-D22	9-D29	7-D29	9-D29
スタップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@100		□-D13@100
腹筋	4-D10		4-D10		※10-D13		※10-D25

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	基礎・基礎梁リスト (別館棟)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	【A1】 1/50 【A3】 1/100	図面番号	S - 122	
発注機関	沖縄県北部医療組合	設計	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	検印	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
			一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
			一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9280号
			一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

特記なき限り下記による
 ・仕口部フープは□-D13#90とする。 ・フープのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	C51	C52	C53	C54
3階	断面			/	
	Dx×Dy	1,000×1,000	1,000×1,000	/	1,000×1,000
	主筋	28-D29	28-D29	/	20-D29
	フープ	□-D13#100	□-D13#100	/	□-D13#100
	仕口部フープ	□-T13#90	□-T13#90	/	□-D13#90
2階	断面			/	
	Dx×Dy	1,000×1,000	1,000×1,000	/	1,000×1,000
	主筋	28-D29	28-D29	/	20-D29
	フープ	□-T13#100	□-T13#100	/	□-D13#100
	仕口部フープ	□-T13#90	□-D13#90	/	□-D13#90
1階	断面				
	Dx×Dy	1,000×1,000	1,500×1,500	1,500×500	1,000×1,000
	主筋	28-D29	44-D29	28-D25	20-D29
	フープ	□-T13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100
	仕口部フープ	□-D13#90	□-D13#90	□-D13#90	□-D13#90

階	符号	C61
R階	断面	
	Dx×Dy	650×650
	主筋	12-D25
	フープ	□-D13#100

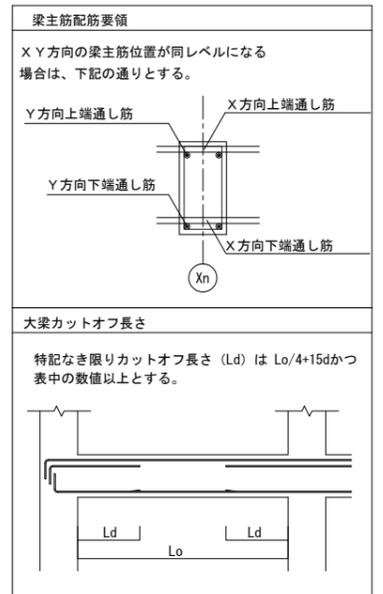


特記なき限り下記による
 ・巾止め筋はD10#1000とする。 ・スーラップのTは高強度せん断補強筋785N/mm²級を示す。

階	符号	G51		G52			G53		G61		G62		G52A			
		位置	端部	中央	AX1端	中央	AX2端	端部	中央	端部	中央	端部	中央	AX1端	中央	AX2端
R階	断面												/	/	/	/
	B×D	700×1,100		700×1,200			700×1,100		700×1,100		800×1,200		/	/	/	/
	上端筋	10-D29		11-D29			11-D29		10-D29		12-D29		/	/	/	/
	下端筋	10-D29		10-D29			10-D29		10-D29		11-D29		/	/	/	/
	スーラップ	□-D13#100		□-D13#100			□-D13#100		□-D13#100		□-D13#100		/	/	/	/
	腹筋	4-D10		6-D10			6-D10		6-D10		6-D10		/	/	/	/
3階	断面															
	B×D	700×1,100		700×1,200			700×1,100		700×1,100		700×1,100		700×1,100			
	上端筋	10-D29		11-D29			10-D29		10-D29		11-D29		10-D29	6-D29	11-D29	
	下端筋	10-D29		9-D29			10-D29		10-D29		10-D29		9-D29	8-D29	10-D29	
	スーラップ	□-D13#100		□-D13#100			□-D13#100		□-D13#100		□-D13#100		□-D13#100			
	腹筋	4-D10		4-D10			6-D10		6-D10		6-D10		4-D10			
2階	断面										/	/	/	/	/	/
	B×D	700×1,100		700×1,100			700×1,100		700×1,000		/	/	/	/	/	/
	上端筋	10-D29		11-D29			10-D29		10-D29		6-D29		/	/	/	/
	下端筋	10-D29		10-D29			10-D29		10-D29		8-D29		/	/	/	/
	スーラップ	□-D13#100		□-D13#100			□-D13#100		□-D13#100		□-D13#100		/	/	/	/
	腹筋	6-D10		6-D10			6-D10		4-D10		/	/	/	/	/	/

階	符号	G54	G55	G63	G64	G65
2階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断面					
	B×D	1,500×1,500	500×900	1,500×1,500	600×900	1,500×680
	上端筋	17-D25	4-D29	10-D25	9-D25	10-D25
	下端筋	17-D25	4-D29	10-D25	8-D25	10-D25
	スーラップ	□-D13#100	□-D13#100	□-D13#100	□-T13#100	□-D13#100
腹筋	8-D10	4-D10	8-D10	4-D10	2-D10	

階	符号	G91	G92
PH階	位置	全断面	全断面
	断面		
	B×D	500×600	500×600
	上端筋	4-D25	4-D25
	下端筋	4-D25	4-D25
	スーラップ	□-D13#200	□-D13#200
腹筋	2-D10	2-D10	



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称		柱・大梁リスト (別館棟)		
	工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1] 1/50 [A3] 1/100	図面番号	S - 123
発注機関	沖縄県北部医療組合			設 計 者	JV名称	内藤・A R G・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和 7 年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第 1-12326 号
摘要	管理建築士 設 計 製 図				所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
					一級建築士	山田 剛	登録番号	登録第310062号
検 印				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号	
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号	

特記なき限り下記による
・巾止め筋はD10@1000とする。 ※付符号の腹筋は柱にL2定着とする

符号	B51		B52		B53		B54		B55	B56	
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	全断面	A1端	中央、他端
断面											
B×D	400×600		500×900		500×1,000		500×1,100		350×600	500×900	
上端筋	6-D22	4-D22	8-D22	5-D22	8-D22	5-D22	9-D22	5-D22	3-D22	8-D22	5-D22
下端筋	4-D22	4-D22	5-D22	6-D22	5-D22	7-D22	5-D22	7-D22	3-D22	5-D22	5-D22
スタップ	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D10@200	□-D13@200	
腹筋	2-D10		4-D10		4-D10		6-D10		2-D10	4-D10	

符号	CG51		CG52	CG54	CB51		WB51
	基端	先端	全断面	全断面	基端	先端	全断面
断面							
B×D	500×900		950×1,000	300×600	500×900		220×500
上端筋	8-D22	5-D22	14-D25	4-D19	8-D22	5-D22	3-D16
下端筋	5-D22	5-D22	10-D25	3-D19	5-D22	5-D22	2-D16
スタップ	□-D13@200		□-D13@150	□-D10@200	□-D13@200		□-D10@200
腹筋	4-D10		※4-D25	2-D10	4-D10		2-D10

床版リスト

名称	厚さ	位置	短辺(主筋方向)		長辺(配力筋方向)		備考
			端部	中央部	端部	中央部	
S51	150	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS51]
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
S52	150	上端筋	D13@200	同左	D10D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS52]
		下端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	
S53	150	上端筋	D13@150	同左	D10D13@200	同左	
		下端筋	D10D13@150	同左	D10@200	同左	
S54	700	上端筋	D22@125	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D22@125	同左	D19@150	同左	
S55	250	上端筋	D13@125	同左	D13@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS55]
		下端筋	D13@125	同左	D13@200	同左	
S56	200	上端筋	D10D13@200	同左	D10@200	同左	鉄筋トラス付捨て型枠床版の場合[DS56]
		下端筋	D10@200	同左	D10@200	同左	
S150	1,500	上端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D19@150	同左	D19@150	同左	
CS51	220~180	上端筋	D13D16@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
CS52	300~180	上端筋	D16@100	同左	D10@200	同左	
		下端筋	D13@100	同左	D10@200	同左	
FS51	250	上端筋	D13@200	同左	D13@200	同左	
		下端筋	D13@200	同左	D13@200	同左	
CFS70	700	上端筋	D22@125	同左	D19@150	同左	
		下端筋	D22@125	同左	D19@150	同左	

壁リスト 1/50

巾止め筋 D10@1000

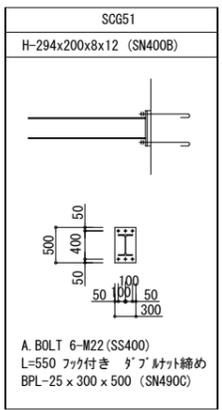
符号	W15	W18	W20	EW40	EW50	W50	KW22	
	断面							
厚さ	150	180	200	400	500	500	220	
縦筋	D10@200 付リガブル	D10@200 付リガブル	D10@200 付リガブル	D16@100 付リガブル	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル	D13@200 付リガブル	
横筋	D10@200 付リガブル	D10@200 付リガブル	D10@200 付リガブル	D18@100 付リガブル	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル	D13@100 付リガブル	
開口補強筋	縦筋	2-D13	2-D13	2-D13	-	-	-	
	横筋	2-D13	2-D13	2-D13	-	-	-	
	斜筋	1-D13	1-D13	1-D13	-	-	-	
符号	FW50	W150	EW150	開口補強筋要領				
断面								
厚さ	500	1,500	1,500					
縦筋	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル					
横筋	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル	D19@150 付リガブル					
開口補強筋	縦筋	-	2-D19	-				
	横筋	-	-	-				
	斜筋	-	-	-				

鉄骨二次部材リスト

特記なき限り下記による
1) 使用鉄骨 SS400 2) H/A7形高力ボルト S10T・F10T

符号	部材	備考
SCG51	H-294x200x8x12 (SN400B)	

梁接合部リスト



工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)			図面名称	小梁・床版・壁リスト (別館棟)		
	工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9			縮尺	[A1] 1/50 [A3] 1/100	図面番号
発注機関	沖縄県北部医療組合			JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度				代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号
摘要	管理建築士 設計 製図			所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
					一級建築士	山田 剛	登録番号
検印				一級建築士	末吉 謙太郎	登録番号	登録第335522号 第9250号
				一級建築士	丸山 茂義	登録番号	登録第173320号 第1058号

プレストレストコンクリート工事特記仕様書

1 総則

1-1 適用の範囲
 本工事は、設計図書並びに下記特記仕様書のほかに、日本建築センター『2009年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』、日本建築センター『プレストレストコンクリート造設計施工指針1983年版』、日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』、日本建築学会『プレストレスト鉄筋コンクリート(Ⅲ種PC)構造設計・施工指針・同解説』、日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説鉄筋コンクリート工事(JASS5)』の規定による。また、これらに示されていない事項については、監理者の指示による。

1-2 構造方式
 本構造の方式は、鉄筋コンクリート造(RC造)とプレストレストコンクリート造(PC造)とを組み合わせた「現場打ち一体式プレストレスト鉄筋コンクリート造」である。

1-3 プレストレス導入方式及び定着工法
 プレストレス導入は、ポストテンション方式とする。PC鋼線の定着工法は日本建築センター「プレストレストコンクリート設計施工指針」の規定に従い評定を受けたKTB工法、VSL工法、または評定を受けた同等以上の工法とする。

1-4 PC工事施工業者
 PC工事の施工については、KTB協会または、PC着建築協会の会員であるPC専業者責任施工とする。

1-5 施工計画
 施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監理者に提出して承認を受ける。

2 材料

a. 鉄筋
 鉄筋は、JISG3112の規格品とする。

b. PC鋼材
 JISG3536PC鋼より線(SWPR7B)の規格品とする。

タイプ	より線本数 n(本)	公称断面積 A(mm ²)	単位質量 w(kg/m)	引張耐力 P _u (kN)	降伏耐力 P _y (kN)	備考
1	1	98.71	0.774	183	156	
3	3	296.13	2.322	549	468	
5	5	493.55	3.870	915	780	
	● 5	592.26	4.644	1098	936	
7	7	690.97	5.418	1281	1092	
	● 7	789.68	6.192	1464	1248	
8	8	888.39	6.966	1647	1404	
	● 8	987.10	7.740	1830	1560	
12	12	1085.81	8.514	2013	1716	
	● 12	1184.52	9.288	2196	1872	

注: PC鋼より線は“プレストレストコンクリートに使用する防食ストランド”として建設技術審査証明等の認定を取得した防食に優れたエポキシ樹脂全素線塗装鋼線または同等以上品とする。

c. セメント
 JISR5210ボルトランドセメントとする。

d. 混和材料
 コンクリート中に表面活性剤などの混和材料を用いる場合、その品質・使用量については、監理者の指示を受ける。

3 型枠

3-1 組立取り外し

a. 型枠は、プレストレス導入時のコンクリートのひずみを、拘束しないような構造とし、かつプレストレス導入に伴う反力分布の変化を、考慮して十分な耐力となるよう留意する。

b. コンクリート打ち込みの際セメントペーストが漏れることのないようにする。

c. PC造部分の型枠組み立て順序についてはPC鋼材の配置に影響され決定することが多いため十分注意する。(梁型枠の片側面または両側面の開放等)

d. PC大梁のスリーブ貫通は、監理者の指示による。

e. プレストレスを与える梁底の型枠の支柱はプレストレスの導入が完了するまで取り外し及び盛り換えを行わない。

f. コンクリート打設時の荷重は、その際のプレストレス導入まで直下階2層で受ける。

4 配筋及び配線

4-1 鉄筋
 a. 鉄筋は正確な配置をし、コンクリート打ちの際にくずれないように強固に組み立てを行う。
 b. スターラップは上部開放型を標準とする。

4-2 PC鋼材
 a. 緊張の定着具はコンクリート打ち込み前に型枠の内側に正確強固に取り付けることを原則とする。
 b. グラウト用孔及び排気管にペーストがつかまらないよう十分に養生をしておく。
 c. PC鋼材を露天に放置して錆を出さないようにする。
 d. PC鋼材の加工組み立てを行なう場合、加熱又は溶接を行なわない。
 e. PC鋼材定着部の露出部はプレストレス導入後、速やかに無収縮モルタル等で保護をする。
 f. PC鋼材の配置後、コンクリート打ちに先だち監理者の検査を受ける。

5 コンクリート

5-1 コンクリートの設計基準強度は、下表による。

設計基準圧縮強度	30 N/mm ²	● 33 N/mm ²	36 N/mm ²	39 N/mm ²
プレストレス導入時圧縮強度	27 N/mm ²	27 N/mm ²	30 N/mm ²	36 N/mm ²
許容圧縮応力度	導入時 13.5 N/mm ²	14.85 N/mm ²	16.2 N/mm ²	17.6 N/mm ²
	設計時 10.0 N/mm ²	11.0 N/mm ²	12.0 N/mm ²	13.0 N/mm ²
引張強度	2.37 N/mm ²	2.46 N/mm ²	2.55 N/mm ²	2.64 N/mm ²
許容引張応力度	導入時 1.80 N/mm ²	1.80 N/mm ²	1.80 N/mm ²	1.80 N/mm ²
	設計時 0.79 N/mm ²	0.82 N/mm ²	0.85 N/mm ²	0.88 N/mm ²

スランプ: 18cm以下とする。(流動化コンクリート含む。)
 (流動化剤使用時のベースコンクリートは、12cm以下とする。)

5-2 適用範囲
 PC大梁及びそれに接続する梁、スラブ、柱とする。
 但し原則として柱部分は、PC大梁下端より300mm以上下がった所までとする。

5-3 テストピース
 コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は次による。

	7日	プレストレス導入直前	28日	予備	合計
現場養生	3本	3本	3本	3本	12本
標準養生	—	—	3本	—	3本

5-4 コンクリート打設
 a. PC鋼材・鉄筋・型枠及び定着具が移動や損傷しないようにする。
 b. PC鋼材のケーブルシース内にセメントペーストが入らないようにする。
 c. バイブレーターは定着具及びケーブルシースに直接触れないようにする。
 d. 定着具近傍は、プレストレス導入により局部応力が発生するのでコンクリートを特に入念に締め固める。
 e. コンクリート打ち込みは、打設箇所に来る限り近づけて垂直に打ち込み「片押し打ち」は避ける。
 f. 原則としてPC部におけるコンクリートの打ち継ぎは行わない。

6 緊張

6-1 準備
 緊張装置は前もってキャリブレーションを行なっておき、コンクリートが所定の強度に達したことを確認の上で監理者の指示によりプレストレス導入作業を行う。

6-2 順序
 プレストレス導入順序は、局部的に完了してしまうことなく、構造全体にわたって進める。

6-3 緊張力
 現場におけるPC鋼材の導入時緊張力は、所定(断面リストに記載)の緊張力を導入すること。

6-4 導入力の管理
 a. PC鋼材は、特記及び設計図書による緊張力が導入されるように緊張する。
 b. 緊張管理・引き止め線の決定方法は、日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』の3.1条に規定される方法によるものとする。但し、PC鋼材長が1.0m以下の場合は、緊張力管理としてもよい。
 c. b)により作成した緊張管理表及びグラフは、監督員に提出する。また、緊張力管理とした場合は、圧力計の写真等を監理者に提出する。

7 グラウト

7-1 品質及び施工
 a. グラウトの調合・施工方法及びチェックリストは、施工計画書の中に明記し、監理者の承諾を受ける。
 b. グラウトの調合は、所定の流動性、圧縮強度が得られるように定める。水セメント比は、4.5%以下とする。
 c. グラウトの28日圧縮強度は、30N/mm²以上とする。
 d. グラウトミキサーは、グラウトを練混ぜ規定時間内に十分練り混ぜることができる性能を持つこと。
 e. グラウトポンプは、グラウトを徐々に、また空気が混入しないように圧送注入できるものとする。
 f. グラウトの注入は、PC鋼材の緊張作業終了後、なるべく早期に行い、PC鋼材を包み、かつ排出口から一様なコンシステンシーのグラウトが十分流出するまで行うこと。

8 配筋

8-1 小梁の下端筋が、PCケーブルにあたる場合

下図のいずれかの要領で対処する。

〔要領1〕

〔要領2〕

〔要領3〕

〔要領4〕

9 後打設壁の取り扱い例

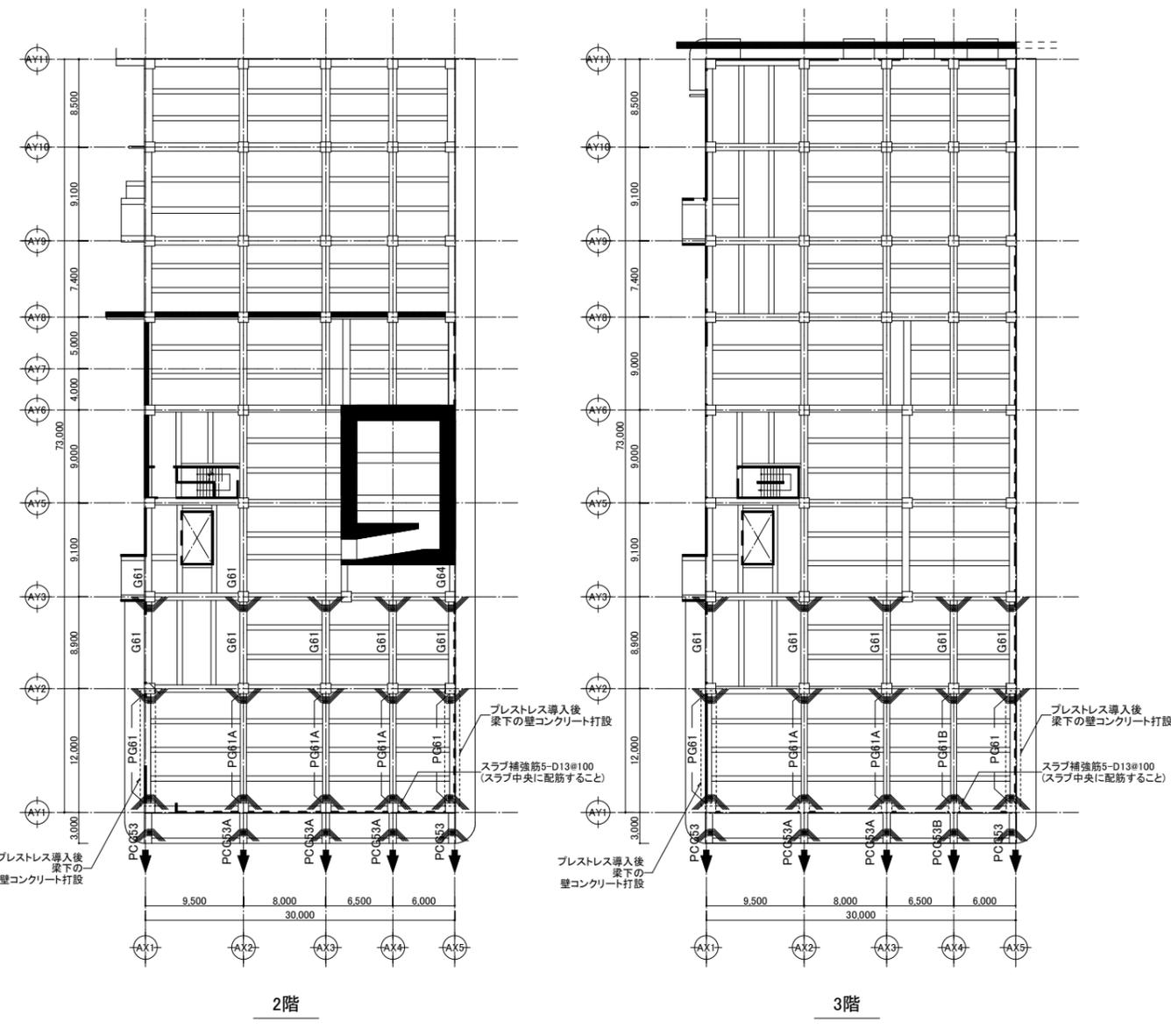
9-1 PC梁を含む場合あるいはPC梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合
 監理者と協議の上、所定の軸圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を原則とする。

壁周囲スリットとする場合(鉄筋は、ラップとする)

壁後打ちコンクリートとする場合(梁緊張後コンクリート打設)

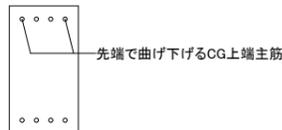
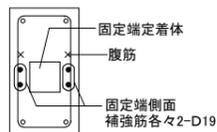
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事(建築工事)	図面名称	プレストレストコンクリート工事特記仕様書(別館棟)		
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1]	[A3]	図面番号 S-133
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号	福岡県知事登録第1-12326号
摘要		所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
検印	管理建築士	設計	製図	登録番号	登録第310062号
				登録番号	登録第335522号
				登録番号	登録第9280号
				登録番号	登録第173320号
				登録番号	登録第1058号

2階,3階PC梁KEYPLAN S=1/300



共通事項

- KEYPLANはPC梁の位置とプレストレス導入に関する補強、必要な施工順序について示したものである。
- ↓ は緊張方向を示す。
- 壁は階下の壁を示し、 で囲われた壁はプレストレス導入後のコンクリート打設とする。このほかにプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は後施工とする。
- 固定端定着が梁内にある場合は、下図に倣い、端梁側面を補強する。補強固定端定着前後40dとし、固定端定着体は梁幅 中央部近傍に寄せて配置。固定端のプレート補強筋は配線図に倣い別に配筋する。
- 片持ち梁(CG)上端隅筋は先端で曲げ下げる。それ以外は止める。

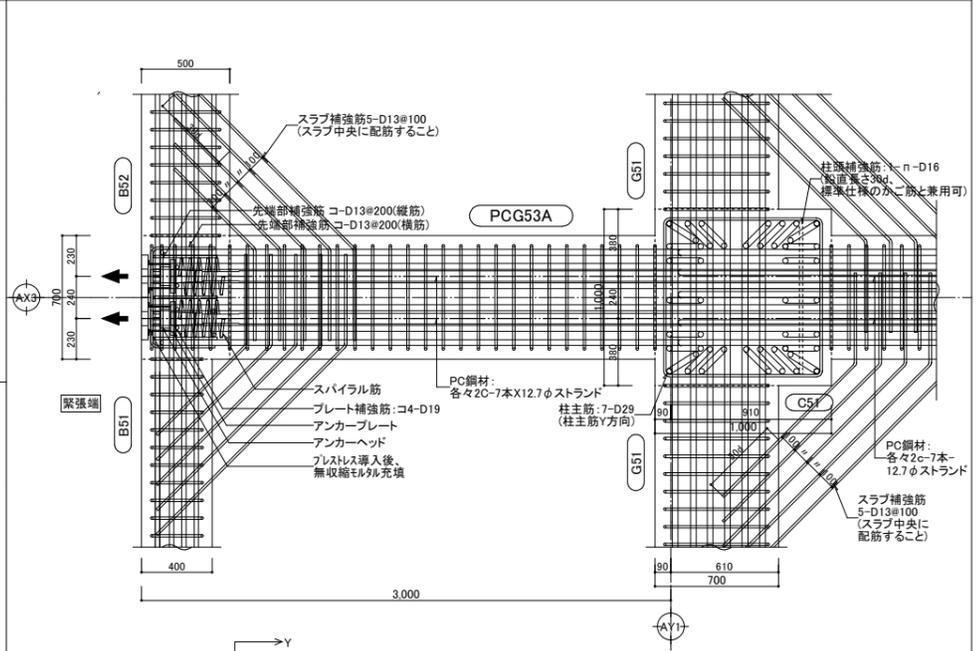
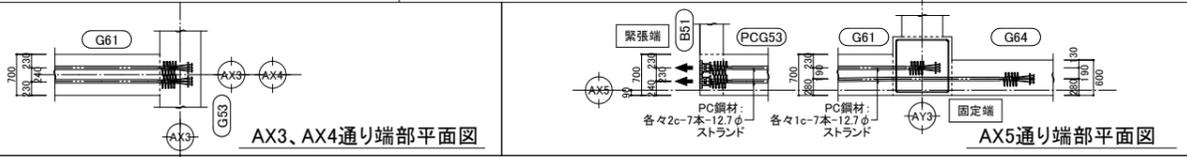
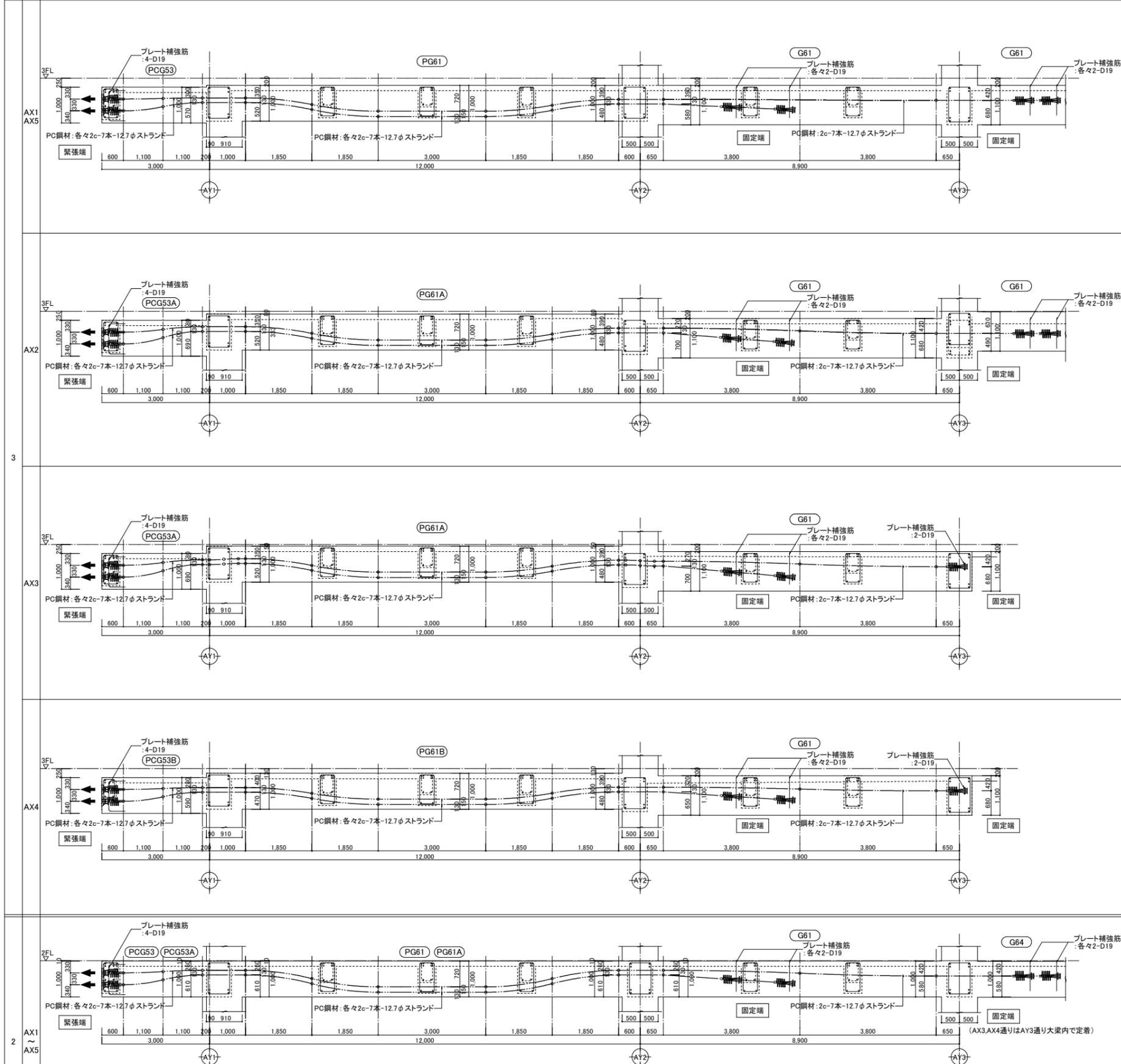


特記なき限り次による ①コンクリート強度 $F_c=33N/mm^2$ ②幅止め筋はD10@600とする。 ③PC鋼材の縦配置は多段配線の場合、監理者と協議の上、全PC鋼材の圆心(偏心)位置が変わらなければ変更可とする。 ④PC鋼材の横配置は監理者と協議の上、全PC鋼材の圆心(偏心)位置が部材の核を越えない範囲で調整可とする。 ⑤PC梁直下にプレストレス導入の妨げとなる壁がある場合は、後施工とする。 ⑥PC工事範囲についてはPC鋼材の設置、緊張作業、及びグラウト注入に適用する。 ⑦G61, G64はRC部材とし、配筋はRCリストに倣う。

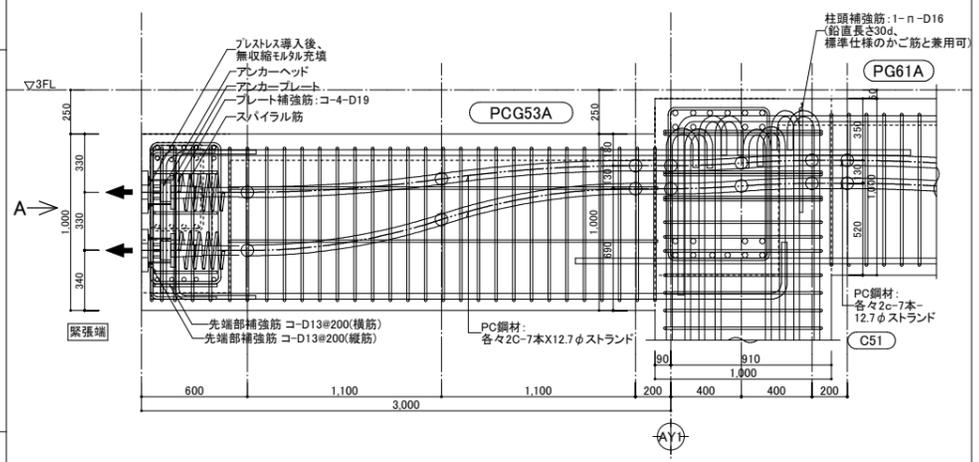
PC梁断面リスト S=1/30

階	符号	PCG53[PCG53B]		PG61[PG61B]			G61(AX1,4,5通り)		
		先端	基端	AY1端	中央	AY2端	AY2端	中央	AY3端
3	位置	▽3FL		▽3FL			▽3FL		
	断面								
	PC鋼材	φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			φ:4~2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		
	上端筋	4-D29	4/2-D29	5/2-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる		
	下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる		
	スターラップ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	RC断面リストによる		
	腹筋	4-D13		4-D13			RC断面リストによる		
	導入力	Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		
	符号	PCG53A		PG61A			G61(AX2,3通り)		
	位置	▽3FL		▽3FL			▽3FL		
断面									
PC鋼材	φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			φ:4~2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			
上端筋	4-D29	6/2-D29	5/2-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
スターラップ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	RC断面リストによる			
腹筋	4-D13		4-D13			RC断面リストによる			
導入力	Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			
符号	PCG53		PG61			G61			
位置	▽2FL		▽2FL			▽2FL			
断面									
PC鋼材	φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			φ:4~2C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			
上端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
スターラップ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	RC断面リストによる			
腹筋	4-D13		4-D13			RC断面リストによる			
導入力	Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			
符号	PCG53A		PG61A			G64			
位置	▽2FL		▽2FL			▽2FL			
断面									
PC鋼材	φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)		φ:4C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			φ:1C-7本×12.7φストランド(ポストテンション)			
上端筋	4-D29	6/2-D29	6/2-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
下端筋	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	4-D29	RC断面リストによる			
スターラップ	□-D13@100		□-D13@100	□-D13@150	□-D13@100	RC断面リストによる			
腹筋	4-D13		4-D13			RC断面リストによる			
導入力	Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)		Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			Po=125kN/本×7本=875kN/ケーブル(導入時緊張端にて)			

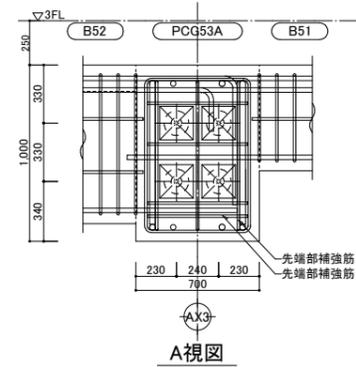
工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	PC梁各階KEYPLAN・PC梁断面リスト(別館棟)	
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/30 [A3] 1/60	図面番号 S-134
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体	
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号 福岡県知事登録第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16	
		一級建築士	山田 剛	登録番号 登録第310062号
		二級建築士	末吉 謙太郎	登録番号 登録第335522号 第9280号
		一級建築士	丸山 茂義	登録番号 登録第173320号 第1058号
検印				



片持梁平面詳細図(3階 AX3通り) S=1/20



片持梁立面詳細図(3階 AX3通り) S=1/20



A視図

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)	図面名称	PC梁断面リスト1・配線図1(別館棟)
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] 1/60 [A3] 1/120 図面番号 S-135
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体
工事年度	令和7年度	代表企業	株式会社内藤建築事務所 登録番号 福岡県知事登録第1-12326号
摘要	管理建築士 設計 製図	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16
		一級建築士	山田 剛 登録番号 登録第310062号
		一級建築士 監理一級建築士	末吉 謙太郎 登録番号 登録第335522号 第9280号
検印		一級建築士 監理一級建築士	丸山 茂義 登録番号 登録第173320号 第1058号

1. 一般事項

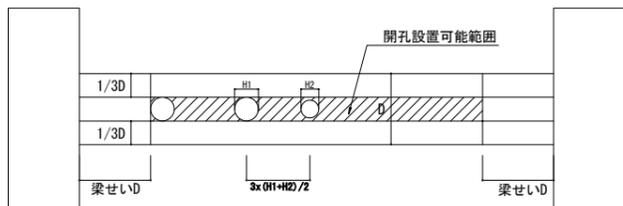
- 本仕様書は、ダイヤレンNS工法によって補強されたプレストレストコンクリート(PC)有孔梁に適用する。
- 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(一財)日本建築センター及び(一社)日本建築学会の関連する諸指針や諸標準、ダイヤレンNS工法設計・施工指針、ダイヤレンNS技術マニュアル、公共建築工事標準仕様書による。

2. 使用材料の適用範囲

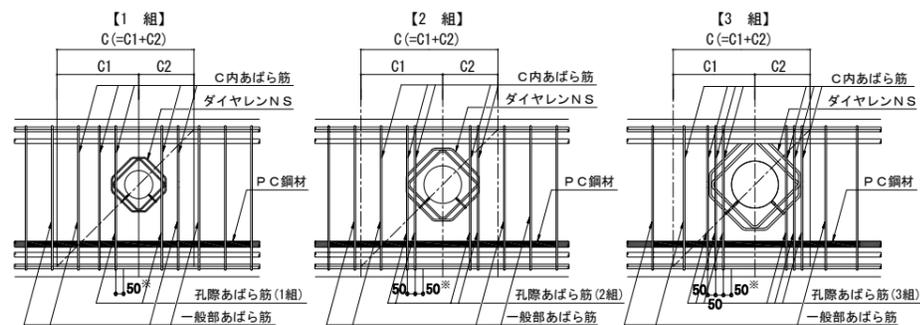
- コンクリート
 $f_c = 24 \sim 60 \text{ N/mm}^2$
- PC鋼材
 PC鋼材 JIS適合品
- 鉄筋
 - 主筋 : 基準強度295~490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え685N/mm²以下の大臣認定品
 - あばら筋 : 基準強度295~490N/mm²のJIS鉄筋、490を超え785N/mm²以下の大臣認定品
 - 開孔上下部補強筋 : 基準強度295~490N/mm²のJIS鉄筋
 - 開孔上下部水平筋 : 基準強度295~490N/mm²のJIS鉄筋
 - ダイヤレンNS : KSS785-K (MSRB-0004)、MK785 (MSRB-0067)

3. 開孔適用範囲

- 開孔径は梁せいDの1/3以下かつ400mm以下とする。
- 上下方向の開孔中心位置は梁せいDの中心付近とし、ヘリあきは梁せいDの1/3以上とする。
- 梁端部から1D (Dは梁せい) の範囲には開孔は設けられない。
- 隣接する開孔の水平方向中心間距離は開孔径の3倍以上とする。また、隣接する開孔の径が異なる場合には、両開孔径の平均の3倍以上とする。
- PC鋼材と開孔のあきは設計上のかぶり厚さを確保しなければならない。
- 径が梁せいDの1/10以下かつ100mm未満の開孔は補強を省略してよい。
- 開孔上下の断面に対する平均軸圧縮応力は $f_c/3$ 以下 (f_c はコンクリートの設計基準強度) とする。



4. C (補強有効範囲) 内あばら筋の配筋要領

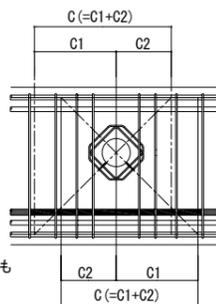


- C (補強有効範囲) 内あばら筋の組数は、開孔が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
- 孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

【開孔に対して片側に配置する孔際あばら筋の標準組数】

開孔径	一般部あばら筋比 (pw)	
	1%未満	1%以上
H<150	1組	2組
150≤H<300	2組	3組
300≤H	3組	3組

- C内あばら筋は、正加力時および負加力時を想定したどちらのCでも満足するように配置する。

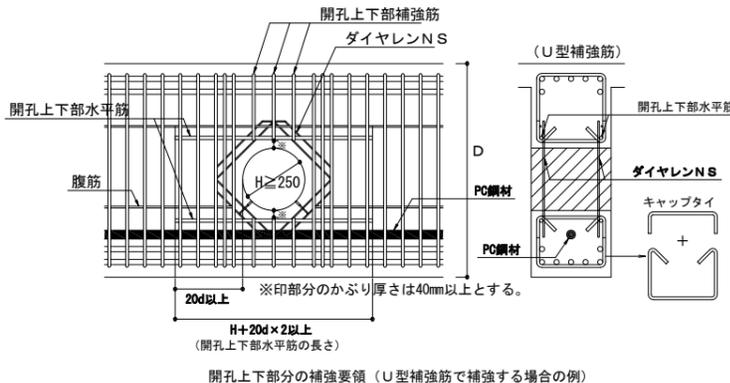


5. 開孔上下部補強要領

(250φ以上350φ未満で補強設計によって開孔上下部に補強が必要な場合、350φ以上の場合)

開孔上下部の補強筋は、開孔上下部補強筋と開孔上下部水平筋で構成される。

- 開孔上下部補強筋
 - 開孔上下部補強筋は、開孔上下部の主筋と開孔水平筋を拘束する閉鎖型の配筋とし、口型、コ型、U型などの形状とする。
 - 一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する(丸鋼及びインデントは不可)。
 - 梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d (dは鉄筋の呼び径) 以下の場合には口型、U型などの形状で補強を行う。
- 開孔上下部水平筋
 - 開孔上下部水平筋は、開孔上下部補強筋と開孔とのかぶり厚さが確保される位置に配筋する。
 - 開孔際からの定着長さは20d以上とする。

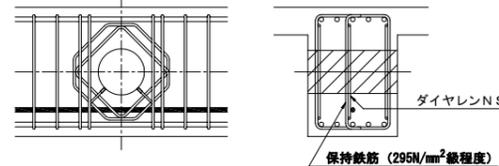


6. 施工要領例

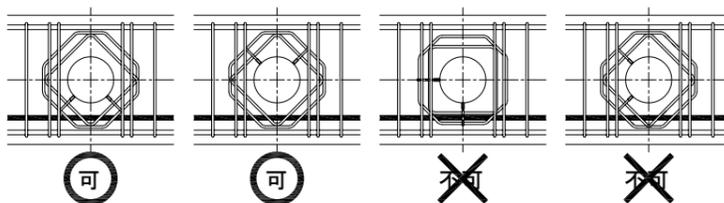
- 型枠上に開孔の位置と開孔径等を墨出しする。
- 補強設計に必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目が必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
- ダイヤレンNSを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。
- スリーブをダイヤレンNSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
- 孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。(束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。)
- 開孔部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7. 施工における注意事項

- 補強設計によってダイヤレンNSが3枚以上になった場合で中子筋が無い場合は下図のように保持鉄筋等に結束する。



- ダイヤレンNSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」のように施工すること。

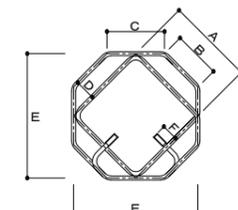


8. ダイヤレンNS標準製品寸法表

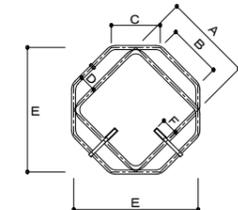
スリーブ径 (対応種)	型	サイズ	寸法						形状	(特記外単位: mm)	
			A	B	C	D	E	F		重量 (kgf/枚)	Ho
100φ (H≤115)	I	6	205	115	127	45	289	45	①	0.55	204
	II	8	205	115	127	45	289	45	①	0.85	205
	III	10	205	95	155	55	289	45	②	1.14	206
	IV	13	210	80	183	65	296	48	②	2.01	211
	V	16	230	100	183	65	325	55	③	3.46	227
	V-3R	16	230	154	237	65	455	57	⑤	6.14	292
125φ (H≤141)	I	6	230	140	127	45	325	45	①	0.80	222
	II	8	230	140	127	45	325	45	①	0.94	223
	III	10	235	125	155	55	332	48	②	1.27	227
	IV	13	240	110	183	65	339	50	②	2.26	232
	V	16	240	110	183	65	339	50	③	3.67	234
	V-3R	16	240	164	237	65	469	49	⑤	6.31	299
150φ (H≤166)	I	6	255	165	127	45	360	45	①	0.66	239
	II	8	255	165	127	45	360	45	①	1.03	240
	III	10	260	150	155	55	367	47	②	1.38	245
	IV	13	260	130	183	65	367	47	②	2.41	246
	V	16	265	135	183	65	374	50	③	3.88	251
	V-3R	16	265	189	237	65	504	49	⑤	6.78	316
175φ (H≤191)	I	6	280	190	127	45	395	45	①	0.71	257
	II	8	280	190	127	45	395	45	①	1.12	258
	III	10	285	175	155	55	403	47	②	1.50	263
	IV	13	285	155	183	65	403	47	②	2.61	264
	V	16	290	160	183	65	410	50	③	4.19	269
	V-3R	16	290	214	237	65	540	49	⑤	7.25	334
200φ (H≤216)	I	6	305	215	127	45	431	45	①	0.77	275
	II	8	305	215	127	45	431	45	①	1.20	276
	III	10	310	200	155	55	438	47	②	1.61	280
	IV	13	310	180	183	65	438	47	②	2.81	282
	V	16	320	190	183	65	452	50	③	4.57	290
	V-3R	16	320	244	237	65	582	52	⑤	7.82	355
250φ (H≤270)	I	6	360	270	127	45	509	45	①	0.89	314
	II	8	360	270	127	45	509	45	①	1.40	315
	III	10	360	250	155	55	509	45	②	1.83	316
	IV	13	370	240	183	65	523	50	②	3.29	324
	V	16	370	210	226	80	523	50	②	5.31	326
	V-3R	16	370	276	292	80	683	50	④	9.11	406
300φ (H≤320)	I	6	410	320	127	45	579	45	①	1.01	349
	II	8	410	320	127	45	579	45	①	1.57	350
	III	10	410	300	155	55	579	45	②	2.05	351
	IV	13	420	290	183	65	593	50	②	3.69	359
	V	16	420	260	226	80	593	50	②	5.93	361
	V-3R	16	420	326	292	80	753	50	④	10.04	441
350φ (H≤370)	I	6	460	370	127	45	650	45	①	1.12	384
	II	8	460	370	127	45	650	45	①	1.75	385
	III	10	460	350	155	55	650	45	②	2.28	386
	IV	13	470	340	183	65	664	50	②	4.09	395
	V	16	470	310	226	80	664	50	②	6.55	396
	V-3R	16	470	376	292	80	824	50	④	10.98	476
400φ (H≤400)	I	8	510	420	127	45	721	45	①	1.92	421
	II	10	510	400	155	55	721	45	②	2.50	422
	III	13	520	390	183	65	735	50	②	4.48	430
	IV	16	530	370	226	80	749	55	②	7.31	439
IV-3R	16	530	436	292	80	909	55	④	12.11	519	

※対応径は、スリーブ面とダイヤレンNS内リング筋の内側面までのかぶり厚さを40mmとした場合の開孔径
 ※表中Hoは、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合のコンクリート面から開孔中心までの距離
 ※寸法は、鉄筋の芯-芯間とする

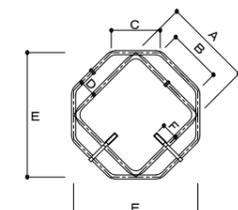
【ダイヤレンNS標準形状】



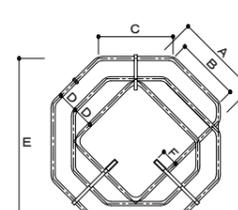
①一重型 (2重リング)



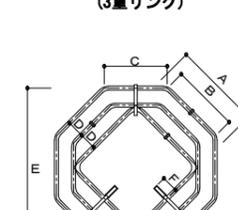
②1箇所溶接型 (2重リング)



③2箇所溶接型 (2重リング)



④1箇所溶接型 (3重リング)



⑤3箇所溶接型 (3重リング)

工事名称	公立沖縄北部医療センター新築工事 (建築工事)				
	図面名称	PC梁貫通孔補強材設計・施工標準仕様書 (別館様)			
工事場所	沖縄県名護市大北1丁目15-9	縮尺	[A1] - [A3] -	図面番号	S - 143
発注機関	沖縄県北部医療組合	JV名称	内藤・ARG・設備研究所設計共同体		
工事年度	令和7年度		代表企業	株式会社内藤建築事務所	登録番号
摘要	管理建築士	所在地	福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目14-16		
			検印	一級建築士	山田 剛
二級建築士	末吉 謙太郎	登録番号		登録第335522号	
三級建築士	丸山 茂義	登録番号		登録第173320号	

1. 一般事項

- (1) 本仕様書は、ダイヤレンNSの標準仕様を定めるものであり、各設計における特記仕様は、本仕様書に優先して適用する。
(2) 本設計仕様に記載のない事項については、建築基準法・同施行令、(一財)日本建築センター及び(一社)日本建築学会の関連する諸指針や諸規程、ダイヤレンNS技術マニュアルによる。

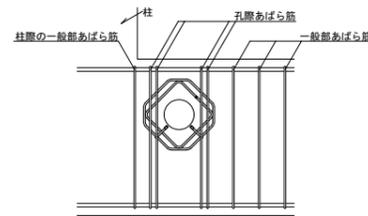
2. 使用材料・貫通孔の適用範囲

- (1) 各評定の適用範囲

Table with 3 columns: 評定番号, ダイヤレンNS, ダイヤレンNSを用いた基礎梁端部小開口補強. Rows include concrete strength, reinforcement details, and opening dimensions.

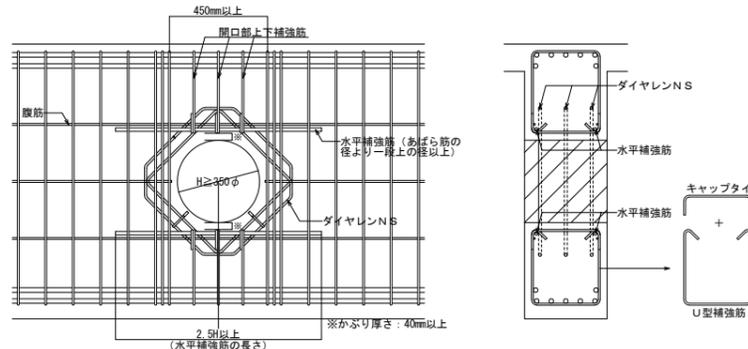
4. 仕様規定

- (1) ダイヤレンNSの使用枚数は、開口1箇所あたり2枚以上とする。
(2) 柱際には、孔際あばら筋の他、少なくとも1組の一般部あばら筋(第一あばら筋)を配筋する。[SS0056-01]



5. 開口部上下補強要領 (350φ以上の場合)

- (1) 開口の左右に配筋する1組目の孔際あばら筋の間隔が梁せいの1/2以上または450mm以上(開口径で350mm以上)になる場合は、開口部上下補強筋と水平補強筋により主筋を拘束するための補強を行う。
(2) 開口部上下補強筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とし、一般部あばら筋のピッチ以下となるように配筋する。(丸鋼及びインデントは不可)
(3) 形状にはコ型・U型・Π型等があり、コ型補強筋の梁主筋側の重ね長さは「梁幅-2×かぶり厚さ」または35d以上とし、水平補強筋側(梁内側)の重ね長さは12d以上とする。ただし、梁幅が400mm未満もしくはコ型補強筋の梁主筋側重ね長さが25d(dは鉄筋の呼び径)以下の場合は、U型またはΠ型の形状で補強を行う。
(4) 水平補強筋は、一般部あばら筋より1段上の径以上とし(SD295A程度)、開口径の2.5倍以上の長さとする。



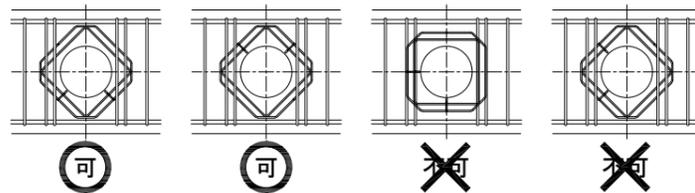
【開口部上下部分の補強要領 (U型補強筋で補強する場合の例)】

6. 施工要領

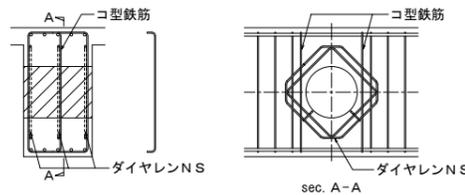
- (1) 型枠上に開口の位置と開口径等を墨出しする。
(2) 補強設計に必要な孔際あばら筋と一般部あばら筋を配筋する。孔際あばら筋は、1組目は必要なかぶり厚さを確保した所定の位置に配置し、2組目以降はそれぞれ50mmピッチで配筋する。孔際あばら筋と一般部あばら筋の間隔は、設計ピッチ以下とする。
(3) 孔際あばら筋を配筋するのが困難な場合は、束ね配筋にすることができる。(束ね配筋は、2組までは束ねることができるが、3組以上は束ねてはならない。)
(4) ダイヤレンNSを左右の孔際あばら筋の間から挿入し、孔際あばら筋等に4か所以上結束する。
(5) スリーブをダイヤレンNSのスリーブ受け筋にセットし、針金等で固定する。
(6) 開口部周囲のそれぞれの鉄筋のかぶり厚さが適正に確保されていることを確認する。

7. 施工における注意事項

- (1) ダイヤレンNSはあばら筋に対して斜め45度の傾きをもって必要な耐力が期待できるため、下図の「可」の向きになるように施工すること。



- (2) 補強設計によって中子筋が無い梁に対して3枚以上のダイヤレンNSが必要になった場合は、下図のようにコ型鉄筋等を開口の左右にそれぞれ1本以上配筋し、この鉄筋にダイヤレンNSを結束して固定する。

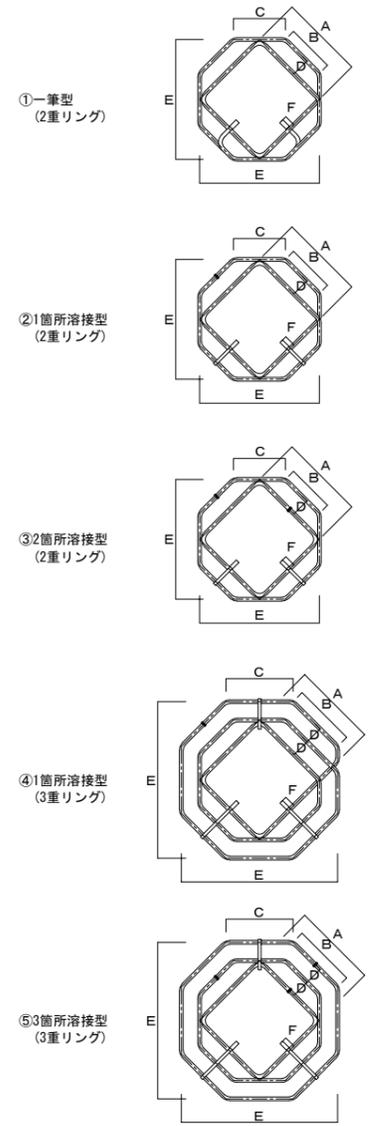


8. ダイヤレンNS標準製品寸法表

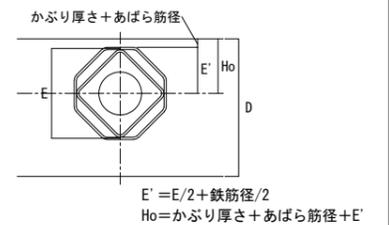
Table with columns: スリーブ径(対応径), 型, サイズ, 寸法 (A-F), 形状, 重量(kgf/枚), Ho. Lists various product specifications for different hole diameters and heights.

※対応径は、スリーブ面とダイヤレンNS内リング筋の内側面までのかぶり厚さを40mmとした場合の開口外径
※表中Hoは、かぶり厚さ40mm、あばら筋16mmとした場合の梁上下端から開口芯までの距離
※寸法は、鉄筋の芯-芯間とする

【ダイヤレンNS標準形状】



【へりあきの最小寸法】
ダイヤレンNSを使用した場合の梁上下端から開口芯までの距離(Ho)を左表に示す。(かぶり厚さ40mm、あばら筋径を16mmと仮定した数値)

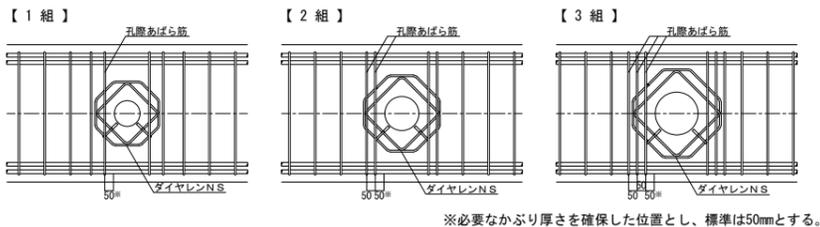
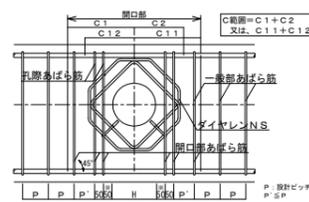


【型式の表記について】
V-3R => V(型式)-3R(リング形状※)
※リング形状は「2R(2重リング)」と「3R(3重リング)」(上記の形状①~⑤)があり、3Rの表記以外は2Rとする。

3. 開口部あばら筋の配筋要領

- (1) 開口部に配筋されるあばら筋の組数は、開口が無いとした場合に配置されるあばら筋組数以上とする。
(2) 孔際あばら筋は、一般部あばら筋と同径以上かつ同鋼種とする。[SS0056-01]
(3) 孔際あばら筋の組数は、下表の標準組数以上とする。

Table showing the required number of reinforcement groups based on opening diameter and height.



※必要なかぶり厚さを確保した位置とし、標準は50mmとする。

Project information table including project name, location, client, and design team details.